

# 共通教育科目

## E. テーマ科目

【異文化との出会い】

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
06101 06102	文化の比較	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	岡 地 稔	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【副 題】 名前の文化史

【講義内容】 どのような民族にも社会にも独自の文化があるが、その独自性や特徴を把握するには、当然のことながら、他の諸文化との比較が有効な方法である。本講義では、世界の様々な文化を構成する要素、たとえば宗教、政治制度、生活・思考様式、慣習あるいは言語等に注目し、それらを比較文化論的に分析して相違点や共通点ないし相互影響関係について検討し、各文化の特殊性と同時に人類文化としての普遍性を考察する。

【講義計画】 「大帝」「肥満王」「懺悔王」「征服王」「倨傲公」「獅子公」…。ヨーロッパ中世においては多くの君侯がこのように渾名で呼ばれる。なぜであろうか。「カロリング家のカール＝マルテル」さんのフルネームは「カール＝マルテル＝カロリング」なのか。またフランス革命で処刑されたルイ16世の父の名はルイで、その父の名もルイ（15世）で、その父の名もルイで、その父の名もルイで、その父の名もルイ（14世）で、その父の名もルイ（13世）であった。一族内で累々と続く同名。ルイはルイを呼ぶこうした類は、中世においてはよく見受けられた。なぜであろうか。「ヨーロッパの名門」と呼ばれるハプスブルク家でさえ、系譜的には11世紀までしかさかのぼれないのは、なぜであろうか。我々の身近にありすぎて、あらためて意識されることの少ない名前。名前に関わる種々の問題を通して、既知と思われているヨーロッパの歴史や社会の一側面を考察していきたい。

- 0 序「カロリング家のカール＝マルテル」さんのフルネーム
- 1 個人名しかもたぬ中世の人々——個人名のみから姓の誕生へ
- 2 姓の誕生期のイギリス——デフォアの「改姓」の遠い背景
- 3 個人名の世界——区別・識別の問題性
- 4 文化としての渾名——渾名の繁栄が反映するもの
- 5 再考：区別・識別の問題と渾名
- 6 名前のもつ意味
- 7 中世における貴族の家意識・家門意識
- 8 中世貴族の名前のその後

【評価方法】 試験

【テキスト】 使用せず。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
06103 06106	文化の比較	選必	秋学期 春学期	各2	1～4	榎 本 鐘 司	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【副 題】 ヨーロッパと非ヨーロッパのスポーツ

【講義内容】 どのような民族にも社会にも独自の文化があるが、その独自性や特徴を把握するには、当然のことながら、他の諸文化との比較が有効な方法である。本講義では、世界の様々な文化を構成する要素、たとえば宗教、政治制度、生活・思考様式、慣習あるいは言語等に注目し、それらを比較文化論的に分析して相違点や共通点ないし相互影響関係について検討し、各文化の特殊性と同時に人類文化としての普遍性を考察する。

【講義計画】 狭義の概念としての「スポーツ」は、西ヨーロッパ近代の発明物である。この概念形成の過程を振り返り、これを「ものさし」として、非ヨーロッパの、あるいは歴史の上での様々な「身体ないし身体運動の文化」を考察する。

概念としてのスポーツは、中世ヨーロッパの王が楽しんだ狩猟からはじまる。楽しみとしての狩りとい

う、非日常的な営みを、きわめて組織的に行いえたことによって、それは即興的な娯楽と区別しうる。そして、「ヨーロッパにおけるスポーツ」とは、この概念としてのスポーツのパラダイムにおいて近代に成立した。近代スポーツのことに他ならない。

「非ヨーロッパのスポーツ」とは、歴史としてのスポーツ、あるいは民族としてのスポーツなどと言い換えることができるだろう。ここでは、近代スポーツにおいて捨て去られた部分にスポットをあてて考えてみたい。古代ギリシアの競技や中世のテニス、現在よく話題にのぼるエスニック・スポーツやニュー・スポーツ、そして日本のスポーツなどを取り上げることによって、近代スポーツからは垣間見ることのできない、より全体的なスポーツ像が浮かび上がってくるだろう。また、近代オリンピックの現在の動向を儀礼化の視点などからも考えてみたいと計画している。

- 第1回：導入、授業の全体について
- 第2回：身体における東西の出合い
- 第3回：最初のスポーツマン
- 第4回：近代スポーツの形成（ジェントルマン）
- 第5回：近代スポーツの形成（アスレティシズム）
- 第6回：近代スポーツの隘路
- 第7回：スポーツの原初形態
- 第8回：象徴としてのスポーツ
- 第9回：文化装置としてのスポーツ
- 第10～11回：オリンピック史
- 第12回：まとめ

【評価方法】 定期試験に加えて、1回のレポートを課して評価。

【テキスト】 決まったテキストはありません。以下は参考書。  
 稲垣正浩著『スポーツを読む』Ⅰ～Ⅲ（三省堂選書）、稲垣正浩著『スポーツ史講義』（大修館書店）  
 松井良明著『近代スポーツの誕生』（講談社現代新書）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06104 06105	文化の比較	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	山田 久美子	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 ケルトの国・アイルランド

【講義内容】 どのような民俗にも社会にも独自の文化があるが、その独自性や特徴を把握するには、当然のことながら、他の諸文化との比較が有効な方法である。本講義では、世界の様々な文化を構成する要素、たとえば宗教、政治制度、生活・思考様式、慣習あるいは言語等に注目し、それらを比較文化論的に分析して相違点や共通点ないし相互影響関係について検討し、各文化の特殊性と同時に人類文化としての普遍性を考察する。

【講義計画】 日本においても、エンヤやU2などの音楽、『マイケル・コリンズ』などの映画、そしてケルトの美術に至るまで、ケルト／アイルランドブームが起こっている。今、なぜ注目されるのか。ケルトとは何か。アイルランド文化とは何か。

ゲルマン民族により辺境の地に追いやられたケルト人。ローマ・ギリシャと同時に、ヨーロッパ文化の源流であるケルト。アイルランドは、ケルトの遺跡や文化が残り、現在のところ、ケルトにアイデンティティを求める唯一の国である。ケルトの文化を辿りながら、さまざまな角度から経済的発展が目ざましいアイルランドの文化を探る。

1. ケルトとアイルランド
2. ケルトの文化遺産
3. ケルトの神話と伝説（1）
4. ケルトの神話と伝説（2）
5. アイルランドの歴史（1）
6. アイルランドの歴史（2）
7. アイルランドの宗教
8. アイリッシュ・ルネサンスとナショナリズム
9. アイルランドの文学と演劇
10. アイルランドの伝統音楽
11. アイルランドの映画
12. ケルティック・タイガー

【評価方法】 定期試験と出席状況により評価する。

【テキスト】 随時プリントを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06111	異文化との接触	選必	秋学期	2	1~4	石原 美奈子	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 イスラムとの出会い

【講義内容】 近年、イスラム社会の様々な問題が、わが国においてもメディアを通じて、積極的に報道されるようになってきた。その結果、イスラム世界への関心が高まり、この社会や文化の理解の必要性が高まっている。いまやイスラムを抜きにして国際理解を考えることは不可能である。本講義では、アラブ世界や東南アジア諸国、アフリカにおけるイスラム社会の政治、風俗、習慣、信条などに注目し、イスラム世界に対する理解を深める。

【講義計画】 イスラムは、中東を発信源にして世界中に広まった。その過程で、イスラムは地域固有の在来文化と混交しながら、住民に受け入れられた。講義では、イスラムの基本的考え方と歴史について概説した後、イスラム世界の文化的多様性について、これまで社会・文化人類学でどのように解釈され、記述されてきたか、具体的な事例を通して紹介する。

1. イスラムの誕生と地理的拡大の歴史
2. イスラム世界の文化的・社会的多様性
  - 1) 神秘主義と聖者崇拜
  - 2) イスラーム法とアダット
  - 3) 女性の役割
3. 近代がもたらした課題：イスラム復興主義の拡がり

【評価方法】 レポート

【テキスト】 講義の中で随時紹介する

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06112	異文化との接触	選必	秋学期	2	1~4	宮沢 千尋	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 文化人類学から見た異文化の理解と摩擦

【講義内容】 各民族には固有の文化が存在するが、そもそもその「固有性」ないし「独自性」がどの程度まで維持されているかは民族によって様ではない。日本を始めとして、多くの民族の固有の文化は他の諸文化との接触を通じて深化、変容、衰退してきた。本講義では、日本を始め、他の諸外国の持っている固有の文化が異文化との接触のなかで、どのような影響を受け、どのような姿に作り上げられてきたかを考察する。

【講義計画】 他の社会科学は自己について研究するのに対して、文化人類学は他者を研究することによって、かえって自己に対する理解を深める学である、と言った人類学者がいる。本講義では、その言葉を念頭に置き、文化人類学の他者理解に影響を与えた様々な思潮が、他者をどのように見てきたのか、文化人類学への影響はどのようなものかを検討する。受講者は高校時代に「倫理」、「世界史」を履修していることが望ましい。理論史を述べたあと、具体的な事例も検討したい。

- (1) 「文化」という難問
- (2) 進歩主義
- (3) 原始回帰主義
- (4) ドイツ観念論

- (5) インディアン研究
- (6) その他の思潮
- (7) 人類学的自己の探求
- (8) 異文化の理解と摩擦

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 特にないが、参考書などは講義中に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06121 06122 06123	異文化の理解	選必	春学期	各2	1~4	小林 傳司	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 科学と出会った日本

【講義内容】 他者との出会いは、個人のレベルでも民族のレベルでもまず何らかの緊張を生じさせる。この緊張が、たとえば「文明の衝突」という言葉で象徴されるような民族間の対立や排斥を生むか、あるいは融和や協調に向かうかは、相手をどう理解するかにかかっている。本講義では、地球規模のコミュニケーションが発達した19世紀以降の世界において、異文化を理解するということがどのようなことを意味するのか、また理解するためのポイントとは何かということを考察する。

- 【講義計画】
1. 概説
  2. 幕末日本が直面した国際関係
  3. 文明の装置
    - ・万国公法
    - ・近代科学技術
  4. 日本の対応
    - ・和魂洋才
    - ・日本の伝統技術
    - ・岩倉使節団
  5. 明治国家の科学技術導入
    - ・工部省と帝国大学
    - ・お雇い外国人と留学生の派遣
    - ・内務省主導の科学技術振興
  6. 文明としての科学
    - ・西洋文明としての科学の変質
    - ・日本の科学理解と西洋文化理解
    - ・科学の世界化と日本の科学受容

【評価方法】 定期試験を原則とするが、適宜小テストやアンケートを実施する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06131	日本との出会い	選必	春学期	2	1~4	KNECHT Peter	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 ウチなる異文化とソトなる異文化（19世紀における日本の変動について）

【講義内容】 われわれは異文化と接触することによって、その文化を理解することができると同時に、それを鏡として、また自文化についての認識を深めることもできる。本講義では、日本が過去の歴史において出会った異文化との接触、交流によって自文化をどう理解するようになってきたのか、その自己理解の変遷について検討する。

- 【講義計画】 明治維新は日本の社会、政治、宗教などの諸分野において重要な変化をもたらした。その要因は、西洋というソトの異文化との新たな出会いと、その出会いに対して国内で様々なレベルで講じられた対策であった。「宗教」を中心にこれらの出会いとその意味を考える。
- ・ 福沢諭吉の文明論の特色。
  - ・ 江戸末期の農村社会の多種多様な形。
  - ・ 長崎の最後のキリシタン崩れが内外で呼んだ反応。
  - ・ 黒船到来と外国人宣教師の活動。
  - ・ 日本側によるキリスト教の新しい理解とその影響の受け止め方：「国家宗教」。
  - ・ 新しい「国家宗教」の宣教運動に対する国内の反応。
  - ・ 「異文化」とは一体どこ文化か。
- 【評価方法】 学期末のテストを中心に学力を問うが、時々小テストを授業時間の最後に行う予定である。尚、学期末試験の際、参考資料の持ち込みを認めない。
- 【テキスト】 特に定めない。プリントを用意することもあるが、講義の進行に合わせて文献を紹介する予定である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06132	日本との出会い	選必	春学期	2	1~4	アッセマ <sup>ミチ</sup> 庸代	
他の科目との関連						履修対象学科	全

- 【副題】 ホリスティック生命論ワーク「いのちとことば」／日本人の精神文化
- 【講義内容】 われわれは異文化と接触することによって、その文化を理解することができると同時に、それを鏡として、また自文化についての認識を深めることもできる。本講義では、日本が過去の歴史において出会った異文化圏との接触、交流によって自文化をどう理解するようになってきたのか、その自己理解の変遷について検討する。
- 【講義計画】 本講義は、外からの知識情報修得knowledge型でなく、自己の内なる中心に気づく生き方でも問われるawareness型である。
- 日本語で日本人が人間らしく「生きる（息ル、意気ル、云い切ル、活ル、逆ル）死ぬる」とはどういうことなのかを生命科学・生命倫理・人間関係論および体験学習法Laboratory Methodの発想を踏まえ、ホリスティックな視点から捉える。
- ホリスティックholisticということばは、ここ何年間か、私が携わっている一つのものの観方生き方で、「全人的」とは「全包括的」とか「こころもからだたましいも」まるごと生きた一つの全体系としてのちや人や社会の「かかわり」を捉えていこうとする文明論的言葉で、人間性教育・個と全体の生きる共生システム・ホリスティック医学・関わり医療・Healing安らぎを探究する。ギリシャ語源holos（全体）は、whole（全）/heal（癒）/holy（聖）/health（健全）=heal（癒えた）+th（状態）という意味をももたらす。
- 自らの死生観と日本文化づくりを意識化し、自分のいのち、生命環境への直観・集中力・感性・知性をみつめるワークのひとつときをご一緒に。
- Lifefantasy, Assertion, Nonverbalcommunication, Groupprocess, Concensus, 医療での自己の意志決定autonomyの場面（生・産・看・死etc.）を想定し、テーマ毎に、role-playing法等によるいのち論プログラムを行う。
- 【評価方法】 その人の「いのち観」のABC評価は不可能不本意なので、自己評価。「ことばによる生命論の言語化」はレポートの創意工夫度、出席回数並び自己存在感のあるプログラム参加度等で評定させて頂く。
- 日本のことばを大切にすることもフィードバック（自己評価）してトレーニングする予定。
- 【テキスト】 文献表リスト、プリント物、VTR等、適宜提示。



12. なお残る問題

【評価方法】 レポート

【テキスト】 講義中に紹介

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06143 06144	アジアとの出会い	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	MOHAMED Naima
他の科目との関連						履修対象学科：全

【副題】 中東アラブ文化理解

【講義内容】 日本はアジアに属しているにもかかわらず、これまでアジアを見過してきた。そのアジアの文化的、経済的重要性が近年ますますクローズアップされてきている。わが国が21世紀における真の国際化に貢献するためには、これまでの欧米偏重主義を改め、アジアの一員としての自覚を再確認し、積極的にアジアに視野を広げなければならない。本講義は、このような問題意識のもとに、アジアの文化について理解を深める。

【講義計画】 中東アラブ社会の複雑な問題が起こるたびに、日本に直接間接にかかわってくる。かつてオイルショックにおびえた日本は、遠く中東アラブ情勢が日本人の日常生活と密接に結びついている事を思い知らされたものだった。この講義を通して非アラブ世界の人間にとって理解しがたいいくつかの話題を取り上げて説明し、解明するために努力するつもりです。たとえば、結婚、離婚と一夫多妻、男女の教育格差、それに女性の権利と基本的人権について、日本の文化と比較しながら解明していきたいと思えます。最終目的として、受講生の国際理解を養うためにもこのアラブ世界の風俗、習慣、信条さらにアラブ人の気質と性格をよく知らなければならない。

- (1) 誤解だらけのアラブ像 (A) 日本の常識はアラブの非常識（黒い肌は美しい、他人の妻をほめてはいけない。）  
(B) 女は夫以外に素肌を見せてはいけない。
- (2) 誤解と偏見の中の女性像 (A) チャドルは男女差別の象徴か？  
(B) 女は男の所有物であるか？  
(C) 今のアラブでは教育が女性の武器だ。
- (3) アラブ式の結婚 (A) 未婚の男女は半人前である。  
(B) 結婚は契約関係である。  
(C) 結婚も一種の商談である。  
(D) 姦婦を処刑するのは当然だ。
- (4) アラブ式の別れ方 (A) 男は一方的に離婚できる。  
(B) 一夫多妻は未亡人救済策。
- (5) アラブの家庭 (A) 妻が女の子を産むと、夫の立場はない。  
(B) 男の子が産まれたら、女装と割礼が必要。  
(C) 女の役割と男の役割。
- (6) アラブ文化における葬儀と相続——この世よりもあの世が大事——
- (7) アラブの商売とは——得して得とれ——。(A) 定価のない商売の論理。  
(B) 利息をとるのは御法度？  
(C) 商売は、物の売り買いだけのことではない。
- (8) 男の面子にこだわるのはアラブ人も日本人も同じだ。
- (9) アラブ人の接待には、用心が肝心——日本式接待は相互理解を傷つける。
- (10) アラブ式「隣人の愛」の核と構造。
- (11) アラブの名前の付け方。
- (12) 人口問題と産児制限。

【評価方法】 毎回、出席をチェックする。それにテストを行ないます。テストの結果、および、出席状況、平常点を加味して判定する。評価については、初回の授業時に説明する。

【テキスト】 テキスト、参考書等は講義の中で指定する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06151 06152	イスラムとの出会い	選必	秋学期 春学期	各2	1～4	MOHAMED Naima
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 アラブ世界の政治

【講義内容】 近年、イスラム社会の様々な問題が、わが国においてもメディアを通じて、積極的に報道されるようになってきた。その結果、イスラム世界への関心が高まり、この社会や文化の理解の必要性が高まっている。いまやイスラムを抜きにして国際理解を考えることは不可能である。本講義では、アラブ世界や東南アジア諸国におけるイスラム社会の政治、風俗、習慣、信条等に注目し、イスラム世界に対する理解を深める。

【講義計画】 中東イスラム社会の複雑な問題が起こるたびに、日本に直接間接にかかわってくる。かつてオイルショックに怯えた日本は遠くの中東アラブ情勢が日本人の日常生活と密接に結びついていることを思い知らされたものだった。その後、日本におけるアラブ・イスラム社会理解には、まだかなりのアンバランスがある事は否定できない。確かに最近日本では、アラブ・イスラム社会を真剣に学ぼうとする学生が増えてきた。また、政治・外交・経済・文化の第一線で活躍している人々からも、目まぐるしく変化する現実に対応するためには、アラブ・イスラム社会の風俗・習慣・信条さらにアラブ人の気質と性格をよく知らなければならないという声が高まってきた。みなさんの国際理解—特にアラブ・イスラム社会—を養う事を目的とした。

- 1 中東をめぐる主な出来事と中東諸国の紹介。
- 2 中東理解の鍵イスラム
  - (A) イスラムは単なる宗教ではない。
  - (B) 習慣と宗教の結合
- 3 イスラム教「歴史・五行・教え・宗派・原理主義」
- 4 家族制度「男女交際のしきたり・結婚等」
- 5 教育制度と女性の立場
- 6 経済「石油戦略の真の動機」
- 7 中東アラブにおける政治情勢
  - (A) パレスチナ問題
  - (B) イラン革命
  - (C) レバノン・イスラエル問題
  - (D) 湾岸戦後・アラビア半島
- 8 日本と中東との関係「経済問題」
- 9 中東平和への道

【評価方法】 出席、レポート、試験で評価する。

【テキスト】 講義の中で指定する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06161	ヨーロッパとの出会い	選必	秋学期	2	1～4	木下 登
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】 スペインの精神文化

【講義内容】 現代ヨーロッパの社会は、民族移動、宗教、ルネッサンス、地理上の発見、商業の発達、絶対王政、科学・産業・市民革命、政治思想の発展など、様々な改革や革命の結果として成立してきた。本講義は、ヨーロッパを形成してきた社会的、文化的、政治的、経済的要素を包括的あるいは個別的に検討し、ヨーロッパ世界の基本構造を理解することを目指す。

【講義計画】 2000年におよぶ多彩な歴史に培われたスペイン文化の魅力を各方面、主として精神面から掘り下げて考察します。思想家を主たる対象としますが、その他、芸術・闘牛・食文化等各方面を含めて視点を広く持ち、スペイン文化の魅力をより深く把握することにも努めます。視聴覚教材も利用します。

1. スペインの大地
2. スペインの歴史 ローマ 西ゴート イスラーム カトリック
3. 闘牛とフラメンコ
4. 人格の完全性 ベラスケス
5. 葛藤の時代 ビーベス
6. 神秘思想 テレジア
7. 地方 バスク ザビエル
8. 地方 バルセローナ ガウディ
9. スペインの音楽
10. スペイン文化の特質

【評価方法】 レポートに出席等を加味して評価。

【テキスト】 テキスト「スペイン論」を配布。  
参考図書 木下登『吹き抜ける風』（行路社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06162 06163	ヨーロッパとの出会い	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	米山 優
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 イタリアとの出会い

【講義内容】 現代ヨーロッパの社会は、民族移動、宗教、ルネッサンス、地理上の発見、商業の発達、絶対王政、科学・産業・市民革命、政治思想の発展など、様々な改革や革命の結果として成立してきた。本講義は、ヨーロッパを形成してきた社会的、文化的、政治的、経済的要素を包括的あるいは個別的に検討し、ヨーロッパ世界の基本構造を理解することを目指す。

- 【講義計画】
1. 私個人とイタリアとの出会いから
  2. ルネサンス音楽の衝撃  
——調和への助走——
  3. ポリフォニー (Polyphony、多声性) の魅惑  
——ホモフォニーに対して——
  4. 近代科学の成立と芸術との微妙な関係——  
——人文主義者たちと芸術家たち
  5. デカルトの反対者ヴィーコ  
——数学と詩学——
  6. ヨーロッパは一つか？  
——地中海世界とアルプスの北——
  7. 学問における厳密性の追求とそれに対立するもの  
——厳密性の階層・学問の階層、そしてその調和——
  8. 普遍的な人 (uomo universale) という在り方  
——百科全書精神の重要性——
  9. ルネサンス思想の完成としての〈モノドロジー美学〉  
——美の問題を学問へ取り戻すこと——
  10. 東西思想の接点への旅  
——日本の思想が深いところでルネサンスに出会う場所へ——

【評価方法】 レポートを、課題リストから選んで2回、そして更にレポートか試験をすることによる。

【テキスト】 参考文献などは講義中に紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06164 06165	ヨーロッパとの出会い	選必	秋学期 春学期	各2	1~4	大久保 泰甫	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 異文化接触のプロセスとして見た近代日本法史

【講義内容】 現代ヨーロッパの社会は、民族移動、宗教、ルネッサンス、地理上の発見、商業の発達、絶対王政、科学・産業・市民革命、政治思想の発展など、様々な改革や革命の結果として成立してきた。本講義は、ヨーロッパを形成してきた社会的、文化的、政治的、経済的要素を包括的あるいは個別的に検討し、ヨーロッパ世界の基本構造を理解することを目指す。

【講義計画】 私たちは、自国の法が日本語で書かれ、法律家が日本語を使い、裁判所でも日本語を用いていることを当然だと思っている。しかし、裁判所や法律家を使用しているものは、元をただせば、西洋起源の「翻訳法」なのである。明治維新とともに、異文化としての外来の西洋法が、せきを切ったように流入してくるが、その内容を理解し、新造語をつくり、曲がりなりにも消化吸収するため、当時の人々は大きな努力を払ったのだった。(現在アジアには、法律用語の「翻訳」に非常に苦労している国が少なくない。)かくして、法典が整備され、続いて法学が輸入・学習されて50年が経過する頃から、今度は、この継受法というものが、現実の社会の実態や日本人のものの考え方とどう折り合いをつけていくのが問題になってくる。つまり、西洋法によって日本社会が変容していくプロセスが進行すると同時に、他方では、外来の西洋法の方もまた、多少とも姿を変えることを余儀なくされていく。  
近代日本法史を、このような異文化接触のプロセスとして把握していきたい。

序論

- I 法から3 Droitまで
- II 世界の主要法体系 (法系論)
- III 日本法の位置付け

本論

序説 西洋法継受の特質と諸段階

第I部 立法的摂取の時代

- 第1章 フランス法優位時代
- 第2章 フランス法からドイツ法へ

第II部 法学的摂取の時代

第III部 「日本化」過程の進行

結び 戦後日本の法と法学

【評価方法】 定期試験(筆記)を主とするが、その他に適宜アンケートへの回答を求め、それを加味する。

【テキスト】 講義要綱および資料を随時配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06171	南北アメリカとの出会い	選必	春学期	2	1~4	岩野 一郎	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 『日本とアメリカの出会いー日米関係の変遷』

【講義内容】 本講義は、民族的、政治的、文化的な多様性に彩られた北米および南米の社会の理解に資するために、両地域の歴史や経済、文化、その他の諸問題について検討する。さらに、現在の国際情勢における両地域の文化的、政治的役割や、我が国との関係について学ぶ。

- 【講義計画】 本年度は日米の出会いをテーマに講義する。  
日本とアメリカの関係は「拝米」から「排米」へと変わり、さらには「嫌米」や「棄米」といった言葉まで飛び出す関係にまでなったことがあった。  
最初に日本とアメリカの関わりを、ペリー提督らによるアメリカ側の日本開国を迫る動きを日本がどのように捉えたかをおさえ、次いで「拝米」＝友好関係の続いた19世紀末頃までの相互関係を眺める。  
さらに、20世紀に入って、世界の列強の仲間入りした日本が何故「排米」＝対立関係へと変わっていったのかを眺める。そのためには、日米間の政治・経済関係に加えて、日本人がアメリカに移住していったこと、それにとまなう文化摩擦の問題を取り上げなければならない。また、第二次大戦と、戦後の二国間関係についても概観する。  
くわえて、日米関係を考えたとき、相互が相手方に持つイメージが重要な役割を果たす。お互いの相互イメージについて考察し、「嫌米」や「棄米」を越えた異文化相互理解のためのポイントを考察することによって、この講義を締めくくりたい。
- 【評価方法】 期末に実施される筆記試験を主たる評価の対象としたいが、それに加えて小レポートを課す予定でいる。それらを総合して成績をつけることとしたい。
- 【テキスト】 細谷千博、本間長世編 『日米関係史』 有斐閣 新版(1991)  
そのほか参考文献を講義中に指示するとともに、適宜プリントを配布する予定。

## [生命と環境]

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06301 06302	生命と倫理問題	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	濱口 吉隆	
他の科目との関連						履修対象学科	全

- 【講義内容】 人間の生命と死をめぐる種々の問題が問われている。それらは、従来「医の倫理」として主に専門職としての医師の問題であった。しかし、生命科学や生命工学などの研究成果を踏まえて、人間の生命、健康と病気については、患者の主権の問題であるとして「生命倫理」という考え方が提唱されている。本講義では、生命倫理とは何か、人間生命の意味は何かという基本的な問いかけをしながら、生命と死の倫理の解明を試みる。
- 【講義計画】 次の順序で講義を展開する。
1. 生命倫理の成立とその背景
  2. 医療と倫理と宗教
  3. キリスト教の人間観
  4. 人格と良心と責任の倫理
  5. 生命をめぐる倫理原則
  6. 健康と病気と生きる意味
  7. 患者と医療との関係
  8. 病人の看護と癒しとホスピス
  9. 医療行為と人体実験
  10. 患者の自己決定権と同意原則
  11. 臓器移植とその倫理性
  12. 人間の死とその判定
  13. 延命医療と尊厳死と安楽死
- 【評価方法】 レポート提出または筆記試験による。講義への出席状況も参考にする。
- 【テキスト】 濱口吉隆著『生命と死の医療倫理』。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06311	環境と倫理問題	選必	春学期	2	1~4	高橋 広次	
他の科目との関連						履修対象学科	全

- 【副題】 環境倫理と法
- 【講義内容】 本講義は、最近とみにクローズ・アップされてきた環境問題を、特に法倫理の領域でとりあげる。今日の憲法体制を根底より規定している様々な近代の市民法原理、たとえば所有・契約・責任に関する原理は、社会的福祉国家の理念の下に大きな変貌を遂げているものであるが、しかし環境問題に直面するとき、自

ずと別の相貌を提示しないだろうか？ こうした面を考えることを機縁として、さらに「権利」(jus)、法(lex)といった伝統的な概念の内容にも遡って検討を加え、環境問題を射程に含めうるような法体系の可能性について考えてみる。

- 【講義計画】
- (1) 環境倫理について馴染みのない人たちに、この問題について1970年代頃から書かれてきた内外の文献の紹介、解説を行う。
  - (2) 環境倫理学のもとにとり扱われる固有のテーマとしてどのようなことが議論されているか、その議論のトポスを列挙する。
  - (3) 法的視角からすると環境倫理はどのような問題を提起するかを取り出してみる。
  - (4) 環境倫理学の新たな法学的可能性へのインパクトを探る。

【評価方法】 成績の評価に際しては、レポートも評価の参考に加える。毎回の講義の出席を重視する。

【テキスト】 加藤尚武『環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー)  
 加茂直樹他『環境思想を学ぶひとのために』(世界思想社)  
 山村恒年『検証しながら学ぶ環境法入門』(昭和堂)  
 他の著作は講義時に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06312 06313	環境と倫理問題	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	高畑 祐人	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 本講義では、倫理の観点から、最近クローズアップされている環境問題を取り上げる。今日の憲法体制を規定しているさまざまな近代的市民法原理は、社会的福祉国家の理念の下に大きな変貌を遂げようとしている。しかし、環境問題に直面するとき、自ずと別の相貌をも示している。こうした側面を考えるとともに、伝統的な概念にも遡って検討し、環境問題を射程に含めうるような法や倫理の体系の可能性について考察する。

【講義計画】 環境問題が今や確実に解決を迫られていることは間違いない。しかし、何がほんとうに問題であるのかを正しく把握していなければ間違った対応をすることになり、かえって環境を悪化させることになりかねない。また、実際に環境問題を解決するのは技術的・制度的取り組みであるが、その前提には自然環境を保護することは「善」であるという価値判断が置かれている。自然環境の保護を善とするそうした価値判断の根拠について論じるのが環境倫理学という学問である。本講義では、まず環境問題では一体なにがほんとうの問題であるのかという視点から「環境問題の現在」を概説し、それをふまえて自然環境の保護を善とする価値観についてどんな議論があるか、つまり「環境倫理学の現在」を概説する。「環境倫理学の現在」にかんして簡単に述べておけば、ここでは「自然中心主義的立場」(自然それ自体のもつ価値のために自然環境を保護する)と「人間中心主義的立場」(人間にとっての自然の価値のために自然環境を保護する)が対立しているが、それぞれの立場の中もさらにさまざまな議論に分かれている。それらの議論の長所と問題点を検討し、自然環境保護にとって適切な倫理的根拠はどんなものかを考えてみたい。

「環境問題の現在」

水不足と水質汚染、ゴミ問題、地球温暖化とエネルギー問題、森林破壊と生物多様性の破壊。

「環境倫理学の現在」

現在の環境倫理的議論の原点(60~70年代の英語圏における議論、リン・ホワトト・Jr、ジョン・パスモア、ピーター・シンガー、クリストファー・ストーン、アルネ・ネス)、「自然中心主義的立場」の議論の問題点(環境ファシズム、自然それ自体の価値という考え方) 「人間中心主義的立場」の議論(人間の基本的欲求に訴える議論、人間の生理的・心理的健康さに訴える議論、自然の美的・文化的価値に訴える議論etc)

【評価方法】 筆記試験またはレポート。出席状況も加味する。

【テキスト】 特に指定はしないが参考文献を挙げておく。『環境倫理学のすすめ』(加藤尚武、丸善ライブラリー)、『環境と倫理』(加藤尚武、有斐閣アルマ)、『自然保護を問いなおす』(鬼頭秀一、ちくま新書)。講義の中でも適宜紹介していく。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06321	人間と環境	選必	秋学期	2	1~4	浦上 昌則	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 特に「人」的環境に着目して

【講義内容】 本講義では、人間の発達過程を社会環境の観点から考察していく。われわれは、多くの人間に囲まれて生活しており、また、そのような環境があっはじめて健全な発達を遂げることができる。このような環境要因としての「ひと」に着目し、それが人間の発達過程にどのような影響を及ぼすのかについて理論的な概説を行う。また、受講生各自が経験してきた対人関係を分析することを通じて、人間の発達における「ひと」の役割について理解を深める。

【講義計画】 父・母・祖母・祖父・きょうだい、先生、先輩、友人（同性・異性）、恋人…。人と人の関係性を記述する言葉は多い。そこで本講では、1つの関係について1~2回程度の時間をあてて考えていく。受講者には、適宜それぞれの関係についての自分の経験を踏まえたレポートの提出を求める。このレポート内容を講義に折り込みながら、関係を多面的に捉えられるように内容を構成する（プライベートには十分に配慮する）。

【評価方法】 出席とレポートを評価対象とする。就職活動、部活動等での欠席にも特別な配慮をしないので注意。

【テキスト】 特に用いない。ただし、講義中に参考文献等を紹介するので、積極的に活用することを期待する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06323 06324	人間と環境	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	林 雅代	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 人間と発達をめぐる諸言説

【講義内容】 本講義では、人間の発達過程を社会環境の観点から考察していく。われわれは、多くの人間に囲まれて生活しており、また、そのような環境があっはじめて健全な発達を遂げることができる。このような環境要因としての「ひと」に着目し、それが人間の発達過程にどのような影響を及ぼすのかについて理論的な概説を行う。また、受講生各自が経験してきた対人関係を分析することを通じて、人間の発達における「ひと」の役割について理解を深める。

【講義計画】 (1) 社会化と文明化  
(2) 子どもの発見と教育の誕生  
(3) 発達心理学と社会思想  
(4) 社会化パターンと人間関係  
(5) 発達をめぐる諸言説と文化

【評価方法】 授業時の小レポートおよび学期末試験による。

【テキスト】 特に指定しない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06331 06332	生活環境と物質	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	山本 正康	
他の科目との関連						履修対象学科	全

**【講義内容】** われわれの生活環境の中には必需物質もあれば有害物質もある。環境の中で、毒性とは何かを考え、その上で有害物質について考える。毒性には、一般的な急性毒や慢性毒ばかりでなく、発がん性の問題や次世代に影響する毒性もある。さらに、タバコや麻薬のような依存性の問題も一種の毒性と見なすことができる。このような毒性について概説を行うとともに環境汚染の問題についても考察を加える。

**【講義計画】** 我々は様々な物質環境の中で生活している。その中には生活に必須の物質もあれば複製的に発生する有害物質もある。これら膨大な物質の中で特に生活上密接に関連する物質等について取り上げる。  
 まず、燃焼に関連して我々に重大な影響のある化学物質、すなわちダイオキシン、PCB、一酸化炭素、炭酸ガスなどについてその発生と有害性を述べる。次いで、環境毒性として内分泌攪乱物質としての環境ホルモンとは何かについて考えてみる。さらに動植物やカビの効果や毒性を講義する。  
 最近の生活に必需品である食品添加物および合成洗剤の作用について講求する。次に、様々な工業農業製品や家庭製品に含まれるヒ素、水銀、鉛などの金属類の人体に対する影響を考えてみる。  
 最後に生活とエネルギー問題を取り上げる。化石燃料の問題点および原子核エネルギーと発生する放射能の我々に対する影響について述べる。

**【評価方法】** ある程度先に問題を提示し、それについて主として筆記試験により評価する。

**【テキスト】** 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06341	自然環境と生物	選必	秋学期	2	1～4	江本 純	
他の科目との関連						履修対象学科	全

**【副題】** 森と人と生物たち

**【講義内容】** 皆さんの想い出のなかに“大きな木”や“林”はありますか。私たちは便利な町に住んでいても、どこかで緑を求めています。実はこの緑、つまり“森”は人類や文明とたいへん密接な関係にあります。“森がなくなると文明が減じる”といったら、あなたは信じますか。この授業は森にかかわるさまざまなそして身近な問題を、私たちの生活を通じて考え、どのような解決方法があるのか探っていくものです。

南山大学のキャンパスは他の大学に比べますと緑が大変豊富です。これはできるだけ自然の景観を壊さないように配慮しながら設計がなされ、緑を残し育ててきたからです。しかし教室棟がさらに建設され、さまざまな施設が充実してくるにしたがい、景観はしだいに変わらざるを得ません。地球の緑も同じ運命をたどっています。それは人間の活動によるものです。人間の生活は森を切り開くことにより発展していきます。しかし同時に人間は森がないと生きていけないのです。

まず、私たちが身近に森をどのように捉え、どのように森とかわりながら生活しているかを考えます。そして、森林破壊が人間の生活により先史時代からどのように進んできたかをみてみましょう。森の破壊が人類にいかにか大きな影響を与えているのかを思い知らされるでしょう。でもそれが人間の活動の本性だとしたら、私たちはもうひとつの新たな人類活動として“森との共存”を身近なものとして創っていかなくてはなりません。

授業の最後に、人類に必要な不可欠な森を考える象徴として、“南山のもり”を育てる方法を皆さんと共に探っていきます。

- 基礎知識（授業の中で学習します）
  - 日本列島の植生
  - モンスーン
  - 花粉分析と絶対年代測定法
  - 森と人々の生活
  - 世界各地における森と人々
  - 日本の基層文化
  - 都市における森とのかかわり
  - 古代文明の発祥と衰退
- 日本列島の森の歴史
  - 水期以降の森の変遷
  - 日本の森林植生
  - 森林と縄文人の生活
  - 日本列島における森林破壊
  - 森と共に生きる
  - 森林とのつながり
  - 都市環境としての緑

世界の森林破壊

【講義計画】

- I. 日本列島の森の歴史
  1. 授業内容の紹介：森を考える
  2. 南山大学の緑と名古屋近郊の森林
  3. 日本列島の森を概観する
  4. 日本の東と西：東西のさまざまな違い
- II. 現実には存在しない過去を、どのようにして研究するのか
  5. 古環境の復元と科学的方法  
過去とは何か  
現在の事象・事象から過去の情報をどのようにして取り出すのか
  6. 絶対年代の推測と花粉分析
  7. 日本列島の森林の歴史氷期以降の森の変遷
- III. 森と人々の世界
  8. ネパールの旅、ヨーロッパの旅
  9. 日本の風土と人々－自然に生きる－
- IV. 森林破壊の過去と現在
  10. 古代文明の発祥と衰退
  11. 世界の森林破壊
- V. 日本における人と森とのかかわり
  12. 縄文時代の人と森林のかかわり
  13. 近代日本の森林の成り立ち
  14. 都市環境としての緑を考える－森と共に生きる－

【評価方法】

筆記試験

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06342 06343 06344	自然環境と生物	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	塚本 睦	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】

環境としての森林

【講義内容】

われわれを取り巻く地球環境は刻々と変化しており、すでに地球の温暖化やオゾン層の破壊、熱帯林の消失及び野生動物の減少が問題化している。この講義では、まず地球環境の仕組みを生態学的にとらえ、地球の自然環境についての基礎知識を学習する。その上で、現在問題になっている温暖化や酸性雨の問題、地球上から消えゆく熱帯林やその環境に依存している動植物の減少問題を今日的な目でとらえ考えていく。

【講義計画】

「森林は木材生産の場」と短絡的に捉えられがちであるが、その現存量の大きさ故、環境面において公共財としての性格が強い。しかしながら、環境への関心が高まっているといえども、特に都市部での生活の中でそれを実感することは少ないといえよう。

本講義では、森林の分布、再生過程、定量的な見方といった基本的な事項や、森林の公共財としての機能について概観し、文明が森林の存在に依存して成立しているという点まで言及したい。森林を食い尽くす文明はやがて滅びることが、未だに教訓になっていないのではないか。

次のようなテーマを扱うが、順序等は講義の進捗により変更することもある。

1. 森林のタイプ別分布
2. 林分構造について
3. 人工林の特徴
4. 森林の再生過程
5. 森林の公益的機能
6. 微気象に関する機能
7. 森林の心理的効用
8. 森林破壊について
9. 森林と文明

【評価方法】

成績は試験の評点と出席状況で決める。

【テキスト】

テキストは使用せず、テーマ毎に資料を配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06351 06352	生命観と環境観の変遷	選必	秋学期 春学期	各2	1～4	横山 輝雄	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 進化論と人間の問題

【講義内容】 進化論が科学的な形で成立したのは19世紀のダーウィン以降であるが、自然界における人間の問題は、それ以前に古代から議論されてきた。人間を「高等」動物としてとらえたり、「存在の連鎖」の中に位置づけたりすることがヨーロッパで行われていた。それに対して、日本や中国などの東アジアでは、それとは異なった自然観があり、進化論の受容に影響を与えている。本講義では、進化論を比較文化的な観点から考えていく。

- 【講義計画】
1. 生物学の歴史における進化論
  2. 古代中世の生命観
  3. 近代の生物学と進化論の先駆者
  4. ラマルクと進化論
  5. ダーウィンの進化論
  6. 社会進化論
  7. 進化論と宗教
  8. 進化論と遺伝学
  9. 進化総合説の成立
  10. 現代進化論の理論的諸問題
  11. 社会生物学論争・創造説論争
  12. 日本における進化論と環境観

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06361	社会システムと環境	選必	春学期	2	1～4	飯田 穆	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 環境と会計システム

【講義内容】 環境汚染や資源の枯渇が社会問題として取り上げられ、効率的な資源利用が叫ばれている。自然環境の生態システムや汚染物が環境に及ぼす影響の推定には、自然科学からの情報が不可欠である。しかし、自然環境へのコストを考慮に入れた上で、社会的な利益を最大化するには経済的な分析も必要となる。本講義では、社会科学の観点から、環境財がもたらす価値を考慮に入れつつ、効率的な環境資源の利用や資源管理を進めるための問題点やその解決策について考える。

- 【講義計画】 企業行動の会計的測定・開示を役割とする企業会計においても、自然環境に係わる企業行動の帰結の測定・開示が重要な課題となる。自然環境に及ぼす影響に焦点を合わせた企業会計的アプローチは「環境会計」と呼ばれる。本講義は、企業と社会との多元的委託・受託関係（多元的参加関係）に基づく会計的アカウンタビリティ概念の拡充をとおして、企業会計における環境関連情報の認識・測定のある方を検討することを課題とする。
1. 企業観と企業会計機能
  2. 多元的参加関係と経営者の多元的受託責任
  3. 企業会計の多元的アカウンタビリティ
  4. 環境関連パブリックとの委託-受託関係
  5. グリーン・アカウンタビリティとその会計的認識

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 講義で指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
06362	社会システムと環境	選必	秋学期	2	1～4	薫 祥 哲
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科 全

【講義内容】 環境汚染や資源の枯渇が社会問題として取り上げられ、効率的な資源利用が叫ばれている。自然環境の生態システムや汚染物が環境に及ぼす影響の推定には、自然科学からの情報が不可欠である。しかし、自然環境へのコストを考慮に入れた上で社会的な利益を最大化するには経済的な分析も必要となる。本講義では、社会科学の観点から、環境財がもたらす価値を考慮に入れつつ、効率的な環境資源の利用や資源管理を進めるための問題点やその解決策について考える。

【講義計画】 自然資源や環境は、経済活動を行う上でのインプットであると同時に、人々は環境アメニティーに高い価値を見出し出している。これまでの経済分析は製品消費からのメリットを追求してきたが、消費に伴う廃棄物の問題や資源の枯渇問題などにはあまり着目して来なかった。この授業では、ゴミ問題から環境評価に至るまで広い視点で環境問題を捉え、環境資源の有効利用を考える。

個々のトピックごとに主としてテキストから講義を行うが、関連のある新聞記事等のリーディングや追加的な教材も使用する。

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 ・細田衛二著「グズとバズの経済学—循環型社会の基本原則—」、東洋経済新報社、1999年  
 ・和田憲昌訳「新しい環境経済学—持続可能な発展の理論—」(第3章「環境の経済的評価」)、ダイヤモンド社、1994年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
06371 06372	生命と法律問題	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	丸 山 雅 夫
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科 全

【副 題】 生命と法

【講義内容】 生物体であると同時に社会的存在であるヒトは、社会規範として法(律)によって規律されている。ヒトと法(律)とのさまざまな関わりのうち、本講義では、生命と法(律)との関わり方について考えてみたい。

【講義計画】

1. 生命と法との関わりがなぜ問題なのか
2. 胎児以前の生命体と法
3. 胎児の生命と法
4. 生命侵害を許容する一般原理・自殺
5. 6. 安楽死
7. 尊厳死
8. 9. 脳死と臓器移植
10. 11. 死刑
12. クローン技術と法

【評価方法】 学期末の筆記試験またはレポートによる。(登録人数などを考慮していずれかの方法に決定する。)

【テキスト】 葛生栄二郎・河見誠『新版いのちの法と倫理』(法律文化社)。毎回レジュメを配布する。

## [知識・言語と情報社会]

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06501	こころとは	選必	春学期	2	1~4	服部 裕幸
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 情報科学と心の問題

【講義内容】 近年、人間のこころの解明が認知科学と呼ばれる学際的研究領域で進められている。そこでは、哲学、心理学、コンピュータサイエンス、生理学などさまざまな学問に基づいて多様なアプローチから人間の理解が試みられている。本講義では、これまでに明らかになった知見に基づいて、こころと脳の関係、人工知能の問題、理解や記憶などのトピックスを取り上げて、こころの問題と情報科学との接点を明らかにしつつ、知識やこころの本性を概説する。

【講義計画】 現代は情報化社会といわれています。コンピュータ・サイエンスを始めとしていわゆる情報科学の発展には目覚ましいものがあります。将来は高度なコンピュータ・システムを組み込んだロボットもできるでしょう。しかし、鉄腕アトムのようなロボットはできるのでしょうか。人間のように心をもった機械というのは可能なのでしょうか。もし不可能だとしたら、その理由は何なのでしょう。この講義ではこうした問題を考えてみたいと思います。  
受講にあたっては、プログラミングやコンピュータのハード・ウェアなどについての専門的知識は必要ありません。具体的なスケジュールは次の通りです。

- 第 1 回：「人間には心がある」・「馬が笑う?」・「植物は痛みを感じない!?
- 第 2 回：そもそも心とは何か
- 第 3~4 回：常識は辻褃が合っていない!
- 第 5 回：ヴァーチャル・リアリティと心
- 第 6~7 回：悲しいから泣くのか、それとも泣くから悲しいのか
- 第 8 回：脳と心の関係
- 第 9 回：コンピュータは人間より「計算」が得意!
- 第 10 回：人間の知能とコンピュータの知能の違いはどこにある?
- 第 11 回：サールの「中国語の部屋」
- 第 12 回：人間は言語をどのように理解しているか

【評価方法】 主として試験あるいはレポートによって成績評価を行うが、出席状況も多少加味することがあります。

【テキスト】 教科書は使用しない。次のものをあらかじめ参考書として推薦しておきます。  
土屋 俊『心の科学は可能か』（東京大学出版会）  
J.R. サール『心・脳・科学』（岩波書店）  
長尾 真『人工知能と人間』（岩波新書）  
他の文献については講義中に適宜あげる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06502 06503	こころとは	選必	秋学期 春学期	各2	1~4	神谷 俊次
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 人間の情報処理のしくみとその働き

【講義内容】 近年、人間のこころの解明が認知科学と呼ばれる学際的研究領域で進められている。そこでは、哲学、心理学、コンピュータサイエンス、生理学などさまざまな学問に基づいて多様なアプローチから人間の理解が試みられている。本講義では、これまでに明らかになった知見に基づいて、こころと脳の関係、人工知能の問題、理解や記憶などのトピックスを取り上げて、こころの問題と情報科学との接点を明らかにしつつ、知識やこころの本性を概説する。

【講義計画】 近年、心理学の領域で急速に発展してきた認知心理学では、人間のこころに対する情報処理的アプロ

チが試みられている。本講では、従来の心理学で個別に分析されてきた「知覚」、「記憶」、「思考」といった心理過程に共通する情報処理過程について理解を深めることを主眼とする。

- (1) こころの理解：認知心理学的アプローチ
- (2) こころのシミュレーション
- (3) 感覚記憶：見るしくみ
- (4) 短期記憶：知的活動の作業場
- (5) 長期記憶：覚えることと忘れること
- (6) 知識表象：知識の種類
- (7) 脳と記憶
- (8) 記憶障害
- (9) 理解 1
- (10) 理解 2
- (11) 感情
- (12) 無意識

【評価方法】 学期末に筆記試験を行う。筆記試験の成績および授業中の小レポートにより評価する。

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じて印刷資料を配布する。参考図書に関しては、講義の中で紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06511	ことばとは	選必	春学期	2	1~4	青柳 宏	
他の科目との関連	ハンゲルを初めて学ぶ学生対象					履修対象学科	全

【副題】 ハンゲル入門

【講義内容】 20世紀は「言語の世紀」と言われてきた。20世紀になって、哲学の関心の対象も意識から言語へと大きく変化してきた。この変化には、現代言語学・論理学の革命が大きく影響している。本講義では、現代思想の核をなす言語学や言語哲学や記号論の考え方を学ぶとともに、われわれに身近な日本語や英語から例を引きながら、ことばについて考えていくことを通じてことばの本質に迫る。

【講義計画】 ハンゲルの文字、発音、文法の初歩を学ぶ入門コース。よく似ているといわれる日本語との違いについても注意を払う。つぎのような順序で学習を進めてゆく予定。

- (1) ハンゲルの文字  
ハンゲルってブロックみたいに見えるけど、アルファベットに近いの？  
それとも、漢字に近いの？
- (2) ハンゲルの発音  
韓国人どうしの会話がしばしばケンカしているように聞こえるのはなぜだろう？  
ハンゲルにもフランス語みたいにリエゾンがあるの？
- (3) ハンゲルの文法  
簡単な会話文を練習しよう。  
ハンゲルが日本人に学びやすいと言われるわけ。

【評価方法】 出席と学期中2~3回の小テスト、および期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】 未定（開講前に指示するので、掲示に注意すること）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06512 06516	ことばとは	選必	秋学期 春学期	各2	1~4	青柳 宏	
他の科目との関連						履修 対象学科	全

【副題】 方言と流行語の言語学

【講義内容】 20世紀は「言語の世紀」と言われてきた。20世紀になって、哲学の関心の対象も意識から言語へと大きく変化してきた。この変化には、現代言語学・論理学の革命が大きく影響している。本講義では、現代思想の核をなす言語学や言語哲学や記号論の考え方を学ぶとともに、われわれに身近な日本語や英語から例を引きながら、ことばについて考えていくことを通じてことばの本質に迫る。

【講義計画】 方言として名古屋弁、流行語としてコギャル語・ギョーカイ語などを取り上げ、その言語学的（発音・アクセント・単語・構文などの）特徴をそれぞれ標準語や東京方言と対照しながら明らかにするとともに、そういったバリエーションを可能ならしめていることばのメカニズムを概観する。具体的には、次のようなテーマを順次論じてゆく予定。

1. 日本語の音と綴り  
名古屋人は [æ] が得意？  
「でら」は発音に忠実？
2. 日本語の品詞と活用  
あの子は「おうちゃくだ」、それとも「おうちゃくい」？  
「覚える」は下二段活用、「覚わる」は何段活用？
3. 日本語のアクセント  
森さんは「もり」さん、「もり」さん？  
「彼氏」と「カレシ」
4. 日本語の音節構造とリズム  
「赤信号みんなで渡れば恐くない」は字余り？  
「れいきーなちゃんねー」って？
5. 日本語の構文  
「今日暑かったことない？」  
「先生はいまお食事してみえます」

【評価方法】 出席と学期中2～3回の小テスト、および期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】 生きる（プリントを配付する予定）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06513	ことばとは	選必	秋学期	2	1~4	大沢 秀介	
他の科目との関連						履修 対象学科	全

【副題】 「言語論的展開」とは何であったか

【講義内容】 20世紀は「言語の世紀」と言われてきた。20世紀になって、哲学の関心の対象も意識から言語へと大きく変化してきた。この変化には、現代言語学・論理学の革命が大きく影響している。本講義では、現代思想の核をなす言語学や言語哲学や記号論の考え方を学ぶとともに、われわれに身近な日本語や英語から例を引きながら、ことばについて考えていくことを通じてことばの本質に迫る。

- 【講義計画】
1. 20世紀英国のモダニズム（1）
  2. 20世紀英国のモダニズム（2）
  3. ウィトゲンシュタインの衝撃（1）
  4. ウィトゲンシュタインの衝撃（2）
  5. 構造主義的言語論（1）
  6. 構造主義的言語論（2）
  7. 言語行為論（1）
  8. 言語行為論（2）

- 9. デカルト派言語学 (1)
- 10. デカルト派言語学 (2)
- 11. パース記号論 (1)
- 12. パース記号論 (2)

【評価方法】 論述式試験

【テキスト】 プリントを用意する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06514 06515	ことばとは	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	初山 洋介	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 ことばについての考え方

【講義内容】 20世紀は「言語の世紀」と言われてきた。20世紀になって、哲学の関心の対象も意識から言語へと大きく変化してきた。この変化には、現代言語学・論理学の革命が大きく影響している。本講義では、現代思想の核をなす言語学や言語哲学や記号論の考え方を学ぶとともに、われわれに身近な日本語や英語から例を引きながら、ことばについて考えていくことを通じてことばの本質に迫る。

【講義計画】

1. ことばについての考え方  
言語学におけることばについての基本的な考え方を、日常見られることばについての見方と比較して検討する。
2. 人間のことばの一般の特徴  
我々人間が使うことばの一般的な特徴を、他の動物のコミュニケーションの手段と比較して考察する。
3. ことばの意味  
我々がことばを使う究極の目的は「意味の伝達」であるということ踏まえて、ことばの意味についての基本的な考え方・分析方法を検討する。
4. ことばと社会  
一言語（特に日本語）内の多様性に注目し、ことばと社会的要因（年齢・性別・職業など）の関係、またことばの地域差について具体的にみていく。その際、受講者の使用する若者ことばや各地域の方言なども検討する。
5. 世界の言語と日本語  
世界の諸言語に目を向け、歴史的な観点（歴史比較言語学）、語順や文法関係の表し方の観点（言語類型論）から、どのように分類できるか、さらに、日本語は世界の諸言語の中でどのように位置付けられるかについて考察する。

受講にあたって、専門的な知識は一切必要としないが、当然のことながら、日本語であれ、外国語であれ、ことばについて何らかの興味を持ち、ことばについて考えることが楽しいと思える人であることが望まれる。また、授業は講義中心に進めていくが、受講者に発言を求めることもある。積極的に自分の考えを述べることを期待する。

【評価方法】 筆記試験および平常点

【テキスト】 『よくわかる言語学入門』（町田健・初山洋介著、バベル・プレス）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06521	知識の探求	選必	秋学期	2	1~4	鈴木 志元	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 モデル論的意味論

【講義内容】 知識とは何かという問は、哲学の歴史のなかでも主要な部分を形成してきた。他方、現代において知識

の問題を論じるに当たっては、科学的知識や言語知もその主要な対象となる。したがって、それらについての考察は正統的な地位を要求する資格があると言えよう。本講義では、「知識とは何か」という問いを論理学や意味論の観点から考えたい。

**【講義計画】**

モデル論に基づく意味論について、そのエッセンスを簡単に紹介する。  
 プログラム意味論からは表示の意味論を、自然言語意味論からはモンタギュー意味論を代表として選び、人工言語／自然言語における意味の捉え方の1つの典型をながめてみよう。  
 論理学やプログラミング言語に関する予備知識は必要ない。むしろ、これをきっかけとして、論理学やプログラミングに関心をもっていただけるのではないかと期待している。

目標は意味論だが、意味論は文法と別個にあるわけではない。  
 まず、文法の基本的な考え方を、論理学や計算論と絡めながら、ゆっくりと展開していきたい。というのも、それは同時にモデル論の意味論の基礎にもなっているからである。

- 1) 論理：公理系
- 2) 再帰
- 3) オートマトン
- 4) 正規言語
- 5) プシュダウン・オートマトン
- 6) 文脈自由文法
- 7) チューリング・マシン
- 8) 帰納的関数
- 9) Godelの不完全性定理
- 10) Montague意味論
- 11) 表示の意味論

**【評価方法】**

主として定期試験

**【テキスト】**

プリントを用意する。  
 参考文献は講義の中で指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06522	知識の探求	選必	秋学期	2	1~4	川浦 佐知子	
他の科目との関連						履修対象学科	全

**【副題】**

コスモロジー（宇宙の中の私、私の中の宇宙）

**【講義内容】**

知識とは何かという問いは、哲学の歴史のなかでも主要な部分を形成してきた。他方、現代において知識の問題を論じるに当たっては、科学的知識や言語知もその主要な対象となる。したがって、それらについての考察は正統的な地位を要求する資格があると言えよう。本講義は、「知識とは何か」という問いを宇宙論的観点から考えることを目指す。

**【講義計画】**

ブライアン・スウィム著の『宇宙はグリーンドラゴン』の講読を通して、宇宙の広大さ、神秘、美について学ぶとともに、そうした宇宙の力を内包した存在としての自己に気づく。スウィムの宇宙論を中心に、インテリジェンスを備えた「主体」としての宇宙を見つめ、その一部として存在する地球、そして自己を考える。

1. コスモロジーとは
2. 世界観の変遷と意識変容
3. ビッグバン、宇宙のはじまり
4. 銀河の誕生
5. スーパーノバ、星の死と再生
6. 惑星系の形成
7. 太陽系の中の地球
8. 海、空、陸、いのち
9. Co-evolution
10. ガイア仮説
11. 宇宙的意識と創造性
12. 新しい物語にむけて

【評価方法】 出席状況、レポート、テストによる総合評価

【テキスト】 『宇宙はグリーンドラゴン』  
『宇宙の起源』

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06523 06524	知識の探求	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	牛 島 謙	
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科	全

【副 題】 20世紀の知識論（科学認識入門）

【講義内容】 知識とは何かという問は、哲学の歴史のなかでも主要な部分を形成してきた。他方、現代において知識の問題を論じるに当たっては、科学的知識もその主要な対象となる。したがって、それについての考察は現代哲学のなかでも正統的な地位を要求する資格があると言えよう。本講義では、「科学とは何か」という問いに哲学や科学史の観点から答えることを目指す。

【講義計画】 20世紀の知識論のおもな主題は科学的知識であった。この講義では、20世紀後半の科学哲学で議論となったテーマを取り挙げて、科学はどのように発展するか、科学的知識とは何か、を考察する。  
春学期と秋学期は同一の内容である。

1. ポパーの反証理論  
境界設定問題  
反証可能性  
科学発展論
2. ハンソンの理論負荷性  
反転図形  
観察の理論負荷性  
発見の論理
3. ターンのパラダイム論  
通常科学  
パラダイムと共約不可能性  
科学の進化
4. デュエム=クワインのテーゼ  
デュエム  
クワイン  
知識のネットワーク
5. 科学とは何か

【評価方法】 筆記試験によって評価する。

【テキスト】 牛島研究室編『科学哲学2001』  
牛島研究室では講義専用のテキストを毎年用意しています。購入してください。

【そ の 他】 講義に関する情報はすべてインターネット上でも提供していきます。次のURLにアクセスして履習の参考にしてください。  
牛島研究室・分室  
<http://www.asahi-net.or.jp/~zh8k-usjm/index.html>

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06531 06532	プライバシーと倫理	選必	秋学期	各2	1～4	阪 本 俊 生	
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科	全

【副 題】 プライバシーの人間学

**【講義内容】** 社会学、文化人類学、心理学、法学など幅広い分野の議論を踏まえて、プライバシー意識を紹介する。また、プライバシーを近代の個人主義社会に特有の社会現象としてとらえ、われわれの社会でいかなる意味を持っているのかについて考察する。特に、自己形成やコミュニケーションのあり方という観点からプライバシーを取り上げる。そして、この立場から、さまざまな個人情報蓄積され、管理されつつある現在社会における人々の意識の変化を考察する。

**【講義計画】** 社会学、文化人類学、心理学、法学、社会史など、幅広い分野からの議論を視野に入れつつ考えていきます。  
 プライバシー意識を多角的な視点から紹介した後、それを近代の個人主義社会に特有の社会現象としてとらえつつ、私たちの社会において、それがいかなる意味を持っているのかについて話します。

具体的には、以下のような内容についてふれていきます。

- ・プライバシーの実際の諸問題：プライバシーに関するこれまでの訴訟を通じて、人びとがプライバシー侵害だと考えてきた諸問題を明らかにする。
- ・マスメディアとプライバシー：マスメディアによるプライバシー侵害と報道の自由。
- ・プライバシー概念をめぐる混乱と諸定義。
- ・文化の違いとプライバシー意識。
- ・神話、伝承に見られるタブーとプライバシー。
- ・近代社会のコミュニケーション・システムとプライバシー意識。
- ・コミュニケーション・システムという観点からみた場合の個人情報管理の意味。

**【評価方法】** 学期末の筆記試験および出席

**【テキスト】** 阪本俊生『プライベートのドラマトウルギー』世界思想社

**【その他】** 参考文献として、大村・宮原編『臨床社会学を学ぶ人のために』世界思想社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06541	人間と機械	選必	秋学期	2	1~4	服部 裕幸	
他の科目との関連						履修対象学科	全

**【副題】** 翻訳と理解をめぐる人間と機械を考える

**【講義内容】** コンピュータが登場した時、それは単なる計算機ではなく、思考の代替物となりうるものとして「電子頭脳」と呼ばれていた。この「第二の頭脳」の発展が人間の生活を大きく変容させてきた。しかし、より重要なことは、それによって人間観が大きく変わってきたことである。計算機が頭脳ならば、人間の心の働きもつまるところは計算であるといえるのか。この講義では、人間とコンピュータの関係に係わる諸問題を取り上げて考察する。

**【講義計画】** わたしたちは日頃なにげなく、多くの翻訳書を読んだりして外国の事情について情報を得ています。また、外国の人に日本の事情を理解してもらおうと、悪戦苦闘することもあります。しかし、翻訳すること、あるいは翻訳を通して何かを理解するとはどういうことなのでしょう。俳句の翻訳というものがありますが、俳句や詩はそもそも翻訳可能なのか、と疑問視する人もいます。それならば、俳句のような芸術的作品でなければこのような問題は起こらないのでしょうか。現代日本の状況だけを見てみると、そこには何も問題がないように思えますが、鎖国していた日本が西洋の科学的知識に初めて接したときを考えてみると話はそれほど単純ではありません。また、最近では技術が進んで、自動翻訳システムなるものがありますが、機械が翻訳するなどということはそもそも可能なのでしょうか。

このように、翻訳や理解をめぐるのはいろいろと興味深い問題があります。この講義ではこうした問題をいくつか取り出して人間と機械のちがいについてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。具体的スケジュールは、以下の通り。

1. 序 「自動翻訳機械があつたらいいな！」
2. 「対応表を覚えているだけではだめ！」－辞書と文法規則－
3. 自然言語を処理するには文章解析をしなければならない
4. 意味を見つける。しかし意味とは何か？
5. 古典的 AI 研究はなぜうまくいかないのか？－「常識は難しい！」－
6. 人間はどのように文を理解しているのか？文の意味と発話の解釈
7. (ノイマン型) コンピュータはどんな仕掛けで働くのか？
8. フレーム問題をこなし、様々な推論を行う
9. 言葉は事実を描写しているだけではない －言語行為論－

10. 言葉は世界を規定する  
 11. 翻訳と翻案 どれほどちがう？  
 12. 理解と受容 翻訳過程は自己変革過程である！

【評価方法】 主としてレポート又は試験の成績によるが、出席状況を多少加味するかもしれない。

【テキスト】 特に使用しない。講義中に参考文献をあげるのをそれを各自読んで講義で不足する分を補って欲しい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06542 06543	人間と機械	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	戸田山 和久	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 アンドロイドの心理学と倫理学

【講義内容】 コンピュータが登場した時、それは単なる計算機ではなく、思考の代替物となりうるものとして「電子頭脳」と呼ばれていた。この「第二の頭脳」の発展が人間の生活を大きく変容させてきた。しかし、より重要なことは、それによって人間観が大きく変わってきたことである。計算機が頭脳ならば、人間の心の働きもつまるところは計算であるといえるのか。この講義では、人間とコンピュータの関係に係わる諸問題を取り上げて考察する。

【講義計画】 この講義の基本姿勢は、機械、特にロボットやアンドロイドという人工物を通じて人間とは何かを考えるというものである。機械は、人間の自己理解を映す鏡として捉えることができる。たとえば、人間機械論という思想の流れがある。それによると、人間はよくできた機械にすぎないのだという。しかし一方で、機械はどんなにうまく動くとしても人間ではないもの、人間であるための最も重要な何かが欠けている存在としても考えられてきた。こうして人間は、あるときは自分を機械と見なしたり、あるときは機械を超えたものと見なしつつ、「人間とは何か」という自己理解を表現してきた。

というわけで、この講義は、アンドロイドという鏡に映った人間を考察することを通して、人間の自己理解にまつわる哲学的問題を考察することをねらいとする。そのために、一つの映画、リドリー・スコット監督の『ブレードランナー (ディレクターズ・カット)』をとりあげ、その映画を隅々まで読み解きながら、いくつかの哲学的問題を抽出しそれを徹底的に考えていくことにする。

【評価方法】 出席点 [15%]、ミニ論文 [35%]、Take-home Exam [50%] をあわせて評価する。

【テキスト】 使用しません。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06544	人間と機械	選必	春学期	2	1~4	柴田 正良	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 人の心の働きはどこまで情報処理か

【講義内容】 コンピュータが登場した時、それは単なる計算機ではなく、思考の代替物となりうるものとして「電子頭脳」と呼ばれていた。この「第二の頭脳」の発展が人間の生活を大きく変容させてきた。しかし、より重要なことは、それによって人間観が大きく変わってきたことである。計算機が頭脳ならば、人間の心の働きもつまるところは計算であるといえるのか。この講義では、人間とコンピュータの関係に係わる諸問題を取り上げて考察する。

- 【講義計画】
- (1) 情報とはそもそもどんなものか
  - (2) 脳の情報処理
  - (3) チューリング・テストの意味 (コンピュータによる知性の実現)
  - (4) 計算は、フレーム問題を乗り越えられるか
  - (5) サールの「中国語の部屋」
  - (6) コネクショニズムとは何か？

- (7) 非法則的一元論の挫折（心と脳の関係）
- (8) デネットの志向的態度と素朴心理学的説明
- (9) 進化の過程で心はどんな役割を果たしたか
- (10) 心の理解と心による理解（感情の情報処理的意味）
- (11) コンピュータによる心の実現に向けて

【評価方法】 テーマのまとめりごとに提出してもらいミニ・レポート、および試験（もしくはレポート）によって成績評価を行う。

【テキスト】 特に使用しない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06551	文化と情報	選必	春学期	2	1~4	横山 輝雄	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 情報文化論

【講義内容】 近年、情報科学の発達とその応用には目を見張るものがある。これが産業構造を変え、新たなサービスの発達を促し、社会生活に、さらには人々の思考や行動様式に、少なからぬ影響を及ぼしている。本講義では、人間とその文化を情報という視点から捉え直していく。

【講義計画】 大衆消費文化の誕生とともに、人々の生活様式や文化のあり方に変容が生じた。それまで社会の中の一部の人々のものにすぎなかった文化が、大量に生産され消費される対象となったのである。鉄道旅行やマス・メディアの普及、複製芸術の発達などがもっている文化史的意識はきわめて大きい。博覧会が消費文化の広告装置として、それまでの大衆娯楽の見物に代わって登場し、それが日常化したデパート（百貨店）は、特に日本において文化の担い手として大きな役割を果たしてきた。19世紀後半に開始され、ヨーロッパ・アメリカ・日本で開催された万国博覧会の歴史を概観し、それらの歴史的文化論的理解を目標とする。

まず、ロンドンやパリを中心として19世紀に開催された万国博覧会について簡単にその意義（例えば近代都市の成立との関係など）についてふれ、日本人がそれにどう参加していったかを述べる。そして日本国内における博覧会や、東京オリンピックと大阪万博の意義、などについて説明し、イメージ形成と結びついた言語表現の性格や情報の役割についても説明する。またアメリカのニューヨーク万博が戦後の都市空間の形成にどのような形で影響したかなどについても述べる。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06552 06553	文化と情報	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	安田 文吉	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 日本文化の表現（近世芸能の表現）

【講義内容】 近年、情報科学の発達とその応用には目を見張るものがある。これが産業構造を変え、新たなサービスの発達を促し、社会生活に、さらには人々の思考や行動様式に、少なからぬ影響を及ぼしている。本講義では、人間とその文化を情報という視点から捉え直していく。

【講義計画】 歌舞伎・人形浄瑠璃を中心とする近世芸能は、それに先行する諸々の文化・芸能・文学を取り込んで成立している。本講義では、歌舞伎・人形浄瑠璃の成立と展開を中心に、VTRを見ながら、所作・台詞・衣裳・音楽・効果（お囃子）・大道具その他の表現方法を考え、あわせて近世芸能文化の特色を検討する。取り上げる代表的作品は『けいせい仏の原』『矢の根（曾我五郎）』『助六』『勧進帳』『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』など。

歌舞伎の成立

歌舞伎独特の表現方法（女方・和事・荒事）  
 VTR：女方・和事・荒事の代表作品の鑑賞  
 所作・台詞・隈取り・衣裳・音楽・効果・大道具・小道具・舞台機構などにも注意する。  
 和事・荒事の代表作品を構成する先行の文学作品・文化の研究  
 御園座の四月興行「陽春大歌舞伎」（春学期）・十月興行「吉例顔見世」（秋学期）の夜の部の鑑賞と研究  
 上演作品の梗概と見どころなどの解説  
 近世芸能文化が表現するところの特色

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 「歌舞伎入門」おうふう・「歌舞伎のたのしみ」北白川書房

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06561	情報社会の構造	選必	春学期	2	1～4	森際 康友	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 自分とは誰か（自己知と社会的アイデンティティ）

【講義内容】 コンピュータの処理能力の向上によって、企業だけでなく、一般家庭においてもコンピュータやインターネットの利用が急速に進んでいる。このような社会における情報化の進展は経済活動にも影響を及ぼしている。また、政府の政策運営や企業の販売活動においても、マス・メディアを通じた情報の提供が重要となっている。本講義では、現代が情報社会であるということをもまえて、人間の知識を分析するための基本的な考え方を解説する。

【講義計画】 最も哲学的な問題とは、自明のように思えて考え始めると実は何もわからないことがわかってしまう、そのような問題である。「私は誰でしょう」というのはそのような問いかけである。それが人の名前や職業を当てる問題であるのなら話は簡単である。が、男性である自分が「もし女性であったなら」と考えてみたときとか、15年前の自分のビデオを見て「かわいい」と褒めそやす両親のことを少し不快に思い、小さいころの自分に対して今の自分が嫉妬しているのに気づいたときとか、自分の肉体、魂、記憶、理性、ものの感じ方……と分けていった上で「本当の自分はどこにいるのか」と訊ねられたときなど、自分という概念の奇妙さの前に立ち止まってしまうのではないだろうか。

「自己同一性」とか「自己認識」の問題といわれてきたこの古典的難問に、「知識と社会」という切り口から新たに挑戦してみたい。

1. 抽象的に考えることはしないで、具体的に考え、その考え方が正しいかどうかをさまざまな手法で試してみる。
2. 概説の後、調査研究の方法を説明する。
3. 班分けする。
4. 各班が課題を選び、分担して調査研究を行い、発表をまとめる。
5. その発表は主報告とコメントからなり、それを受けてクラス全体でディスカッションを展開する。
6. クラスのホームページを設け、活用する。
7. できれば全報告をまとめ、論集を作る。

【評価方法】 上記の活動全体における取り組み・達成度などを総合的に評価する。出席はもちろん重視する。

【テキスト】 森際康友編『知識という環境』（名大出版会、1996年）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06571	情報を読む	選必	春学期	2	1～4	松田 真一	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 偶然の中の規則性

【講義内容】 世の中は情報が溢れている。現代人にとって必要なことは、たくさんの情報の中から重要な情報を抜き出して上手に活用することである。しかし、情報の中でも比較的多い数値情報に限ってみると、その重要性を判断するだけでも容易でないことが多い。本講義では、難解な数学的アプローチを避け、身近な題材で情報判断の基準を解説することを目的とする。

【講義計画】 以下のようなテーマを取り上げていく。  
 1. 偶然とは何か（乱数編）  
 2. ジンクスについて  
 3. 情報を数値で表す  
 4. 偶然とは何か（ゲーム編）  
 5. 降水確率とは  
 6. 平均や偏差値について  
 7. 視聴率とは  
 各テーマは1、2回の講義に相当する。  
 なお、主体的に学習を進めてもらうため、ほとんどのテーマで演習・実験などの時間を設ける予定であり、それらの結果は時間内にレポートとして提出してもらう。

【評価方法】 定期試験6割、出席とレポート4割で評価する。

【テキスト】 特になし。必要ならばこちらでプリント等を準備する。ただし、演習・実験の必要上、常にトランプの準備を必要とする。

## 【モダンの系譜】

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06701 06702	思想・文化をめぐって	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	小林 寧子
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 日本・東南アジア交流史

【講義内容】 本講義では、近代に入ってからの思想と文化の状況についての理解を深める。具体的には近代世界の構築に影響を与えた哲学や宗教等を題材とし、近代を思想史的ないし文化史的な視点から眺めてみる。とくに、近代化の歴史をリードしてきたヨーロッパの哲学思想、またこれからの国際理解には欠かすことのできないアジア・イスラム圏の文化における世界観や人間観を学ぶ。

【講義計画】 近代日本が東南アジアとどのような人的・文化的交流を行ってきたのかを各時代ごとに検証する。それぞれの時代に日本の政治の潮流に影響を与えた思想に重点を置いて考える。

- 1) 蘭学者の見たアジアー西欧帝国主義のプリズム
- 2) 脱亜入欧とアジア主義
- 3) 「大東亜共栄圏」と民族主義
- 4) 戦争責任と戦後民主主義
- 5) 脱植民主義と「新植民主義」
- 6) 民際交流をめざして

【評価方法】 小レポートおよび定期試験により総合的に評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06703 06704	思想・文化をめぐって	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	ZAGORSKY Alexei
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 近代化論の基礎

【講義内容】 本講義では、近代に入ってから思想と文化の状況についての理解を深める。具体的には近代世界観の構築に影響を与えた世界史発展論及び近代化論を題材とし、近代を思想史的な視点から眺めてみる。とくに社会・文明進化・近代化の歴史を教えるヨーロッパの哲学発展を学ぶ。

- 【講義計画】
- 1 社会発展論の欧州集中の問題、センシモンの社会発展段階論
  - 2 マルクスの五段階論、マルクス主義の行詰
  - 3 マックス・ヴェーバーの貢献：近代化における宗教の役割、現代官僚論
  - 4 アルノルド・トインビの文明論、ハンチントンの文明衝突論
  - 5 グミリョフの民族発展論
  - 6 ロストウの成長段階論、近代化論
  - 7 近代化論から見たアヘン戦争以後の中国の発展
  - 8 近代化論から見た明治維新
  - 9 近代化論の問題点、従属論、世界経済の周辺論（ワレンスタイン）
  - 10 脱社会主義論
  - 11 ポスト工業化社会論（ベル）
  - 12 ポスト工業化社会論（インゲルハート）

【評価方法】 試験

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06711 06712	芸術をめぐる	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	西崎 専一	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 現代音楽への歩み（音楽と視覚的イメージとの関わりを通して考える）

【講義内容】 本講義では、主に西洋近代の芸術の歴史的展開を辿ることになる。ルネッサンス以降に現れたヨーロッパの芸術の潮流について学び、そのなかで名作と呼ばれる芸術作品の持っている普遍的価値や意味などを、時代の変化や社会背景を浮かび上がらせながら、明らかにしていく。

【講義計画】 この講義では、19世紀末以降、ヨーロッパの音楽が現代的な様相をたどっていく過程を、音楽と視覚的イメージとの関わりを通して考察します。

現代音楽の特質のひとつとして、音楽が単なる楽音による表現であることを超えて様々なメディアとの関わりを求めはじめ、特に映像との関係を強めていることがあげられます。

こうした傾向の先駆者として、19世紀ロマン派の標題音楽における視覚的イメージの取り込みがあげられますが、これらの傾向がミュージック・コンクレートなどの前衛的な音楽のあり方に転換していく過程を概観します。そしてショスタコーヴィチ、タルコフスキーなどの作曲家、映像作家を擁したロシアにおける「映像音楽」の特質について考え、さらに武満徹の映画音楽を通して音楽が視覚的なイメージをどう吸収するかを探ります。

(1~3) ロマン派の音楽における視覚的イメージの表象について

(4~5) ジョン・ケージとミュージック・コンクレートの発想について

(6~8) 音楽と映像の関係について（ロシア・東欧の作品例を通して、音楽表現の視覚性、具象性について考える）

(9~12) 武満徹の映画音楽の思想（音楽と映像の融合について）

【評価方法】 定期試験（レポート）の結果や講義の出席状況を総合して判断します。

【テキスト】 必要に応じて資料を配布します。

【その他】 コンスタントな講義出席を希望します。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06713 06714	芸術をめぐって	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	江本 菜穂子
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 西洋近代美術（西洋近代絵画の展開）

【講義内容】 本講義では、主に西洋近代の芸術の歴史的展開を辿ることにする。ルネッサンス以降に現れたヨーロッパの芸術の潮流について学び、そのなかで名作と呼ばれる芸術作品の持っている普遍的価値や意味などを、時代の変化や社会背景を浮かび上がらせながら、明らかにしていく。

【講義計画】 この講義では、19世紀から20世紀にかけての西洋美術史の中で特に「絵画」を中心に起こった様式や理論上の「革命」と呼べる展開を歴史的にふまえて考えていくものである。各時代、各様式ごとの把握はもちろんのこと、次の様式や主義・主張へ移行するその意味を理解し、絵画を通しての可能性、限界を理解できるようにしてもらいたい。名画・名作と呼ばれている作品の価値、普遍的な作品のもっている意味等、時代や社会背景を浮かび上がらせながら、講義を行っていくつもりである。  
毎回スライド使用（ビデオの使用も有）

- 1～4 講義の導入－西洋美術史の基本  
19世紀の美術・新古典主義  
ロマン主義
- 5 自然を見直す・フォンテンブロー派とは
- 6 空想の世界から現実へ－キュスターヴ・クールベ
- 7 印象派への歩み エドワード・マネの近代性
- 8～10 印象派－光と色彩の画家達－モネ・ルノワール等
- 11～13 後期印象派 写実性から次のステップへ  
ゴッホ・ゴーギャン・セザンヌ
- 14 内面を見つめる絵（世紀末絵画）  
モローの「サロメ」を中心に

【評価方法】 出席とレポート（筆記試験の場合も有）

【テキスト】 高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06721	歴史の諸相	選必	春学期	2	1～4	SZIPPL Richard
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 ヨーロッパ近代史（ヨーロッパ近代社会の成立）

【講義内容】 本講義では、わが国をはじめ西洋世界の近代史をひもときつつ、近代世界の社会体制や文化、世界や歴史に対する認識のあり方について理解を深める。そのために、政治史、経済史あるいは文化史の流れを概観することで近代社会の成立過程を学び、さらに現代におけます注目されはじめた新しい問題意識や現代的課題を取り上げ、これからの歴史構築において何が重要であるかを模索する。

【講義計画】 ヨーロッパの近代社会は様々な改革や革命の結果として成立してきたものである。講義はルネサンス時代から現代までの社会、文化、政治、経済を形成してきた「革命」的な動きに焦点をあわせ、ヨーロッパの近代社会の成立と展開を考察して、近代世界についての理解を深めていく。

本講義では、まず、ヨーロッパの中世から近代への過渡期のルネサンス文芸復興、宗教改革、地理上の発見、商業の発達、絶対王政の成立がもたらした政治的、社会的、経済的変化についてかんがえる。次に、近代の物質的な文明の根拠となった「科学革命」、「産業革命」、資本主義の発展、それから、近代的国民国家の基礎を成している「市民革命」と政治思想（自由主義、ナショナリズム、社会主義）の発展を考える。最後に、19世紀後期と20世紀初期の国際関係にふれる（帝国主義、第一次世界大戦）。

【評価方法】 学期中提出一回のレポート・期末論述試験・授業への参加姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】 大下尚一他『西洋の歴史（近・現代編）』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06722 06723	歴史の諸相	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	石月 静恵	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 日本女性史（近代日本における女性の地位の変遷過程を中心に）

【講義内容】 本講義では、わが国をはじめ西洋世界の近代史をひもときつつ、近代世界の社会体制や文化、世界や歴史に対する認識のあり方について理解を深める。そのために、政治史、経済史あるいは文化史の流れを概観することで近代社会の成立過程を学び、さらに現代においてますます注目されはじめた新しい問題意識や現代的課題を取り上げ、これからの歴史構築において何が重要であるかを模索する。

【講義計画】 次のようなテーマですすめていく。

- 序 女性史とは
- 1 女性史研究の歴史
  - 2 古代女性史研究
  - 3 中世女性史研究
  - 4 近代女性史研究
  - 5 女性労働の変遷
  - 6 女性論の系譜
  - 7 女性運動
  - 8 15年戦争と女性
  - 9 占領下の日本
  - 10 まとめ

【評価方法】 授業への出席と受講の仕方、レポート、定期試験により評価する。

【テキスト】 藤田貫他編『女性史を学ぶ人のために』（世界思想社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06731 06732	文学をめぐる	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	中 裕 史	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 20世紀前半の台湾文芸

【講義内容】 本講義ではわが国を始め、東西の近代文学に現れる人間観ないし世界観について理解を深める。そのために、近代文学が生まれる前提としての古代、中世の文学をも視野に入れつつ、近代へ至る時代の営みを文学の視点から眺めてみる。具体的には、個々の代表的な文学作品を取り上げ、これらの作品の中に見出される世界や人間についての思想を分析し、それらの思想の背後にある歴史的、社会的背景をも検討する。

【講義計画】 19世紀末に清国から日本に「割譲」された台湾は、以後50年にわたって日本による植民地支配をうける。本講では、主として日本統治期に息づいていた文芸作品をとりあげ、また日本統治期に取材する近年の作品をも適宜参照しながら、台湾にとって、20世紀前半とはいかなる意味をもつ時期であったかを考えてみたい。

講義のすすめ方は、およそ下記の順をとる。

- ①20世紀前半までの台湾の歴史を概観。
- ②小レポートの提出とその評価。
- ③文芸作品の鑑賞と解説。
- ④総括

なお、受講生には、上記のごとく小レポートの提出と講義のなかで鑑賞した作品等にたいする短評（毎回）の提出を求める。

【評価方法】 短評（毎回）、小レポート（1回）および定期試験により総合的に評価する。

【テキスト】 載國輝『台湾』（岩波新書）  
伊藤潔『台湾』（中公新書）  
以上を参考書とする。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06733	文学をめぐる	選必	秋学期	2	1～4	辻本 裕成	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 文学作品の享受にみる古典作品の新生

【講義内容】 本講義ではわが国を始め、東西の近代文学に現れる人間観ないし世界観について理解を深める。そのために、近代文学が生まれる前提としての古代、中世の文学をも視野に入れつつ、近代へ至る時代の営みを文学の視点から眺めてみる。具体的には、個々の代表的な文学作品を取り上げ、これらの作品の中に見出される世界や人間についての思想を分析し、それらの思想の背後にある歴史的、社会的背景をも検討する。

【講義計画】 日本の古典文学作品は、時代時代によってその享受のされ方を大きく変えることによって現代に伝えられてきた。改作・注釈・評論・説話化・絵画化など多岐にわたる古典作品の享受行為を作品や作家ごとに時代を迫って分析することにより、古典文学における時代の「モダン」ということを考えたい。例えば藤原定家と式子内親王の恋愛は謡曲などにも取り上げられて有名であるが、史実としては認めがたい。けれどもそのような伝説が作られたことは決して日本文学史にとって無意味なことではない。定家と内親王の恋愛の伝説の付加という新たな「享受」が為されたことにより、定家と内親王の文学が「新生」したのである。そのような「享受」という文学行為の積み重ねを背後に持つからこそ古典は古典なのである。

具体的には  
和泉式部の生涯と作品  
和泉式部伝説の概要  
式子内親王の生涯と作品  
定家との恋の伝説の真偽  
小野小町の作品と小町伝説  
源氏物語の享受 について講義する予定である。

【評価方法】 最後の講義の日に持ち込み可の試験を、試験期間中に持ち込み不可の試験を行い、その合計点によって評価する。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06741	社会の諸相	選必	春学期	2	1～4	MUNCADA Felipe	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 労働移民

【講義内容】 Foreign workers can be seen almost any where in Japan now. Why are there foreign workers in the first place? What mechanisms are involved in labor migration? How is labor migration explained by micro labor migration theories? What are the positive and negative impact of labor migration on both the sending and receiving countries. These are some of the questions we will try to answer in this class.

【講義計画】 First there will be a discussion on what constitutes a migrant worker. Next, we will focus on the migrant workers from the Philippines, Korea and Thailand and discuss how migrant labor influenced their local economies. We will then discuss various labor migration theories ranging from macro to micro migration theories.

【評価方法】 Assessment is based on class participation, reports and short tests.  
\*授業は日本語で行いますが、教材は英語で書いてあります。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06742 06743	社会の諸相	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	吉田 あけみ	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 現代社会と個人（現代社会に生きる個人にとってのジェンダー問題）

【講義内容】 本講義は、現代世界の様々な社会的な状況について、主として社会学的なアプローチを通して理解を深めることを目的とする。具体的なテーマとしては、わが国をはじめ欧米における現代社会秩序のあり方、経済や労働に関する問題、社会保障システムのあり方、日常生活の基本的な場である家族の問題、さらに現代社会におけるジェンダーの問題などを扱う。

【講義計画】 ワークショップ、ビデオなどの視聴覚資料と講義、エクササイズなどを通じた参加型学習により、次の具体的な現実の問題に取り組みたい。

- (1) 家族とは何か
- (2) 選択的夫婦別姓について
- (3) 軍慰安婦問題・観光買春問題について
- (4) 「私」の恋愛観
- (5) トランスジェンダーについて
- (6) 三歳児神話、母性神話について
- (7) 配偶者優遇政策について
- (8) リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて
- (9) ジェンダーの社会化
- (10) 職業におけるジェンダー問題

【評価方法】 試験を実施します。評価は主にこの試験によりますが、講義後、小レポートを書いて提出して頂き、それも最終評価に加味します。

【テキスト】 教科書は指定しない。プリント配布。主な参考文献は吉田あけみ『女性学を学ぼう』（Click）、久武綾子・戒民江・若尾典子・吉田あけみ『家族データブック』（有斐閣）神原文子・高田洋子編『教育期の子育てと親子関係』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06751 06752	科学の諸相	選必	秋学期	各2	1~4	小林 傳司	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 モダンの推進力としての科学

【講義内容】 本講義では、世界の近代化に果たした科学の役割を様々な視点から分析する。そのために、まず現代科学の基礎となった「科学革命」について触れ、その科学の歴史的展開を概観する。さらに視点を日本に向け、日本における科学の受容の持つ歴史的意義を考察する。こうして、モダンの推進力としての科学・技術の発達がわれわれの自然観や社会生活にいかなる影響を及ぼしてきたかを検討する。

- 【講義計画】
1. 序論——近代とはいつの時代か
  2. 古代ギリシャの自然観・技術観  
プロメテウス神話をめぐって
  3. ヨーロッパの自然観の変容  
有機的自然観から機械的自然観へ  
中世的世界秩序の動揺（近代科学と魔女狩り）
  4. 産業革命以前の技術  
農耕社会における技術観
  5. 産業革命  
アジアに対するレスポンスとしての産業革命

- 動力機械の登場と労働形態の変化  
時間意識と時計
6. 近代生活様式の出現  
鉄道のもたらしたもの  
共有地から公園へ  
レジャーの始まり
  7. 大量生産の時代  
自動車の登場  
コンピュータの登場

【評価方法】 定期試験を原則とするが、適宜小テストやアンケートを実施する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06761 06763	人権をめぐって	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	川島 正樹
他の科目との関連						履修対象学科：全

【副題】 文化の越境と人権を考える

【講義内容】 本講義では、近代の体制や人権の基礎が作られた18世紀当時の状況から、社会的、政治的状況の変遷を通して人権や人権思想がどのように変化してきたかを学ぶ。さらに人種問題や差別問題といった従来から注目されている人権問題を始め、さらにはプライバシー権、子どもや女性の権利、環境や企業における人権など、これまで見られなかった新たな人権問題をもクローズアップして、その問題の起源や原因を問い、解決の道を展望することを目指す。

【講義計画】 グローバル化の進展とともに世界各地とくに所謂「先進諸国」で経済的・人的交流はますます促進され、他の「先進諸国」と同様に日本においても「多文化状況」が顕著になっている。「人権」概念を問題とするとき、ふつう私たちは法的平等権や福祉・社会保障などの政治・経済的側面を問題とすることが多いが、実は「文化」の側面においても真剣な配慮は不可欠であり、しばしば重大な紛争が「文化」をきっかけに起こることすらある。本講義ではグローバル社会にとって避け難く、また望まれる「異文化交流」における「倫理」の構築に向けて、「人権」の問題を「文化」の側面において考えることを通じて、グローバル化がもたらす諸問題を解決する糸口を見出すことを目的とする。

具体的には次のⅠ～Ⅲの各項目を4回ずつの授業で学習する。

- Ⅰ. 文化衝突の現場から「日本」を考える
  - ①エチオピア西部の「民族紛争」の現場から
  - ②イスラエルに住まうアラブ人
  - ③タンゴの国の倫理
  - ④内と外から「日本」を考える
- Ⅱ. 民族共存の実験から
  - ①日本の植民地支配を考える
  - ②USAの「人種」共存の夢と現実
  - ③ドイツの「外国人」労働者たち
  - ④イスラームの倫理
- Ⅲ. 異文化理解の倫理を求めて
  - ①「翻訳」はどこまで可能か
  - ②眼前の難民の子どもを何人救えるか
  - ③第三世界の女性たちの声にどう答えるべきか
  - ④共通の倫理確立のために

【評価方法】 合計三回の小テストの合計点（45%）と期末レポート（55%）とを総合して判断する。小テストは原則的に択一問題で10分程度の時間でできるものとする。レポートは400字詰め原稿用紙換算で10枚程度の量とし、①参考文献一覧表や「論文の作法」（授業中に説明する）にきちんと法っているか、②十分な文献に当たり、かつよく消化しているか、③問題提起の結論が論理的に導かれているか、の三点を吟味して評価する。

【テキスト】 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』（名古屋大学出版会、2000年）2900円＋税。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06762	人権をめぐる	選必	秋学期	2	1~4	沢登 文治
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 現代の人権を考える（人権の誕生と発展の経緯、そして現代の人権まで）

【講義内容】 本講義では、近代の体制や人権の基礎が作られた18世紀当時の状況から、社会的、政治的状況の変遷を通して人権や人権思想がどのように変化してきたかを学ぶ。さらに人種問題や差別問題といった従来から注目されている人権問題を始め、さらにはプライバシー権、子どもや女性の権利、環境や企業における人権など、これまでに見られなかった新手の人権問題をもクローズアップして、その問題の起源や原因を問い、解決の道を展望することを目指す。

【講義計画】 講義は、順次、以下のテーマを取り扱っていく。  
1. 企業社会と過労死 2. 環境と人権 3. 薬害エイズと患者の権利 4. 報道と人権 5. 外国人の人権 6. 子供の人権 7. 女性の人権 8. プライバシー権 9. 自己決定権 10. 知る権利 11. 自己情報開示請求権 などである。

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 講義の初日に紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
06771	政治・経済の諸相	選必	秋学期	2	1~4	友岡 敏明
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 個人と政治・経済・国家とのかかわり——自由観の変遷——

【講義内容】 冷戦崩壊後の国際政治、そして55年体制終焉後の国内政治は、いわば激動の時代に突入し、先の見通しが見えない状況が続いている。このことは同時に、政治と密接に絡む経済の動向の先行き不透明さの原因ともなっている。本講義では、まず、これまでの政治経済の基本理念を再確認し、この領域の近現代における状況を分析する。そして、そこに潜む問題点を把握し、これからの政治経済がどのような道をたどるべきかを考察する。

【講義計画】 人間、したがって政治・社会・国家の捉えかたは時代とともに変わってきた。その関係の歴史が進歩の過程か退歩のそれかといった単純な規定は、不可能であり、あえて言えば、その両方であったとしか答えようがない。歴史のある段階をとって、それがその前の段階から進歩した面もあれば退歩した面もあるのは当然のことである。

また、ある歴史段階に出現した政治・社会・国家を支える理念が永久に無修正に続くかどうかと、この点にかかわる問題がある。これについては、次のように言える。すなわち、理念の抽象のレベルにもよるが、理念の無修正の継続はありえないことは経験が教えている、と。換言すれば、ある時代に出現する理念はやがて濫用に陥るか、時代が提起する問題に答えるには硬直的過ぎることになるという歴史法則を、その経験が感知しているということである。

この講義では、そのような歴史法則の具体的な例証となる「自由」の観念を取り上げて、その近代的自由の誕生と進展、およびその進展に伴う政治・経済事象（一方における人権観念の高まりと他方における資本主義の発達）に急（せ）かされて自由そのものが変貌せざるを得なかった過程（新自由主義の出現と自由の対象の変化）を紹介することにする。そうすることによって、歴史の機械的進歩／退歩を気にする気分を克服し、その二者択一の呪縛を解かれた後、新しい状況下での新たな問題解決法の探求の必要性があること、その必要性に対処するには歴史に学ぶ主体的思考主体でなければならないことを理解することができるであろう。

具体的な講義のスキームは以下のようである。

⑤自律的個人への契機（宗教改革）——ルターとカルヴァン——

⑥自律的個人のいくつかの相貌（権利主体と漂流する孤独者）——デカルトとパスカルと人権宣言——

⑦産業革命と資本主義の進展

- ④自由な経済活動を支える理論——アダム・スミス——
- ⑤Climbing boysの事例を通して見る社会問題とその解決
- ⑥新自由主義と新しい社会（大衆社会）の出現——ミルトクヴィルとグリーン——

【評価方法】 問題意識への真摯な取り組み、したがって授業への取り組みにおける誠実度を参照し、定期試験における達成度で見る。

【テキスト】 特に指定せず。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06772 06773	政治・経済の諸相	選必	春学期	各2	1~4	川崎 勝	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 日本の政治と経済の見方・考え方

【講義内容】 冷戦崩壊後の国際政治、そして55年体制終焉後の国内政治は、いわば激動の時代に突入し、先の見通しが見つからない状況が続いている。このことは同時に、政治と密接に絡む経済の動向の先行き不透明さの原因ともなっている。本講義では、まず、これまでの政治経済の基本理念を再確認し、この領域の近現代における状況を分析する。そして、そこに潜む問題点を把握し、これからの政治経済がどのような道をたどるべきかを考察する。

【講義計画】 戦後55年にわたる日本の政治と経済の動きについて、どのような要因によってどう変化してきたか、歴史的に考える。

日本の政治と経済の実態を、アジア・太平洋戦争、戦後復興、高度成長、環境破壊、オイル・ショック、政治不審、55年体制の崩壊、バブル経済、現在の不況などについて、1930年代以降の歴史と関連づけながら取り上げる。随時、新聞記事の読み解きも行なう。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 橋本寿朗『戦後の日本経済』（岩波新書、1995年）ほか。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
06774 06775	政治・経済の諸相	選必	春学期 秋学期	各2	1~4	ZAGORSKY Alexei	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 冷戦崩壊後の国際政治、そして55年体制終焉後の国内政治は、いわば激動の時代に突入し、先の見通しが見つからない状況が続いている。このことは同時に、政治と密接に絡む経済の動向の先行き不透明さの原因ともなっている。本講義では、まず、これまでの政治経済の基本理念を再確認し、この領域の近現代における状況を分析する。そして、そこに潜む問題点を把握し、これからの政治経済がどのような道をたどるべきかを考察する。

【講義計画】 冷戦後の国際問題に注目して、各国の政治や外交政策、および国際関係について、歴史の流れをも視野に入れながら、分析を加えていく。具体的には、アメリカの対外政策、中国やASEAN諸国の諸問題、APECの形成と展開、アジア太平洋地域の安全保障といった問題を論じることになる。

【評価方法】 受講態度、レポート等によって評価する。

【テキスト】 授業開始時に指示する。

# 共通教育科目

F. 分野科目  
(旧全学自由科目)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
07101	哲学A	選	春学期	2	1~4	谷口 佳津宏	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【副 題】 哲学を初めて学ぶ人のために

【講義内容】 この世におけるあらゆる利害得失の問題から解放された、目的をもたないところの、人間そのものにかかわる事柄を営むものである2500年の伝統をもつ哲学という学問の意味と意義を、あらゆる人間のうちにあって、実際に「哲学する」ことに迫りゆく力に頼りつつ、具体的には、先哲の思想に即しながら、初心者向けにわかりやすく解説する。

【講義計画】 上のような趣旨にもとづき、西洋哲学の歴史をたどりながら、かみくだいて紹介していきます。

【評価方法】 成績評価は期末試験（非論述式）で行ないます。

【テキスト】 プリント資料配布。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
07102	哲学A	選	秋学期	2	1~4	赤 松 宏	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【講義内容】 この世におけるあらゆる利害得失の問題から開放された、目的をもたないところの、人間そのものにかかわる事柄を営むものである2500年の伝統をもつ哲学という学問の意味と意義を、あらゆる人間のうちにあって、実際に「哲学する」ことに迫りゆく力に頼りつつ、具体的には、先哲の思想に即しながら、初心者向けにわかりやすく解説する。

【講義計画】 「よく生きる」ことを終生のモットーにかかげ、レギーネ・オルセンとの熱烈な恋愛を自らの思想形成の糧にしなが、当時の思想界、マスコミ界、晩年には国教会との対決を試みることによって、「デンマークのソクラテス」たらんとし、短い一生を終えたキルケゴールの生涯と思想を振り返りつつ、現代の教育が見落してきた側面に光を当てたいと思う。

【評価方法】 受講状態、レポート及び試験の成績による。

【テキスト】 「キルケゴール」工藤綏夫著、清水書院  
「人生に向き合う」赤松宏著、晃洋書房

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
07106	哲学B	選	秋学期	2	1~4	金子 善彦	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【副 題】 哲学入門

【講義内容】 意識があるとはどういうことか、物事を知るというのはどういうことか、人間が行為するとはどういうことか、言葉が意味をもつというのはどういうことか、等々といったテーマをとりあげて、いくつかの具体的アプローチを示すことで、哲学というものがどんな学問であるかについての基礎的理解を得る。

【講義計画】 哲学という学問は、たとえば次のような問題に取り組んできました。  
・ロボットは心をもつことができるか？

- ・地球が滅亡しても「夕焼けは赤い」と言えるか？
- ・歯科医は、患者の歯の痛みを本当に理解できるか？
- ・「カラスは黒い」という知識を私たちはどうして得たのか？
- ・無人島に一人だけのこされた赤ん坊は、「正常・異常」の区別ができるようになるか？
- ・「猫の顔洗い」は行為と言えるか？ 行為と行為でないものを区別するものは何か？
- ・昨日の自分と今日の自分が「同じ人間」だとどうして言えるのか？

しかし、なぜこのようなことをわざわざ問題にする必要があるのでしょうか。普通には奇妙としか言いようのない問題を扱う哲学という学問は、いったいどのような営みなのでしょう。この講義では、これらの問題をできるだけわかりやすく考察することにより、その奇抜さとスタイルのゆえに敬して遠ざけられることが多い哲学の世界に、皆さんをいざないます。

**【評価方法】** 教室での普段の態度を重視します。具体的には、積極的な発言、レポート（小テスト）の内容などです。当然、出席してもらうことが大前提です。  
学期末試験。他人のノートを見ただけでは問題の意味すらわからない問題になるでしょう。

**【テキスト】** 特に指定しない。必要な場合は、プリントして配布します。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07107	哲学B	選	春学期	2	1~4	赤松 宏	
他の科目との関連						履修対象学科	全

**【講義内容】** 意識があるとはどういうことか、物事を知るといったのはどういうことか、人間が行為するとはどういうことか、言葉が意味をもつというのとはどういうことか、等々といったテーマをとりあげて、いくつかの具体的アプローチを示すことで、哲学というものがあるかについての基礎的理解を得る。

**【講義計画】** 先ずフィロソフィアとして始まった西洋哲学の源流を探り、特にプラトンの哲学を中心に概観する。その後、東洋の哲学、特に仏教の哲学を概観する。西洋、東洋の代表的な哲学を概観した後、再び哲学とは何かという問題に戻り、随時必要に応じて哲学史にも言及しつつ、概論的に講義する。

**【評価方法】** 受講状態、レポート及び試験の成績による。

**【テキスト】** 「人生に向き合う」赤松宏著、晃洋書房

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07111	文学A	選	春学期	2	1~4	細谷 博	
他の科目との関連						履修対象学科	全

**【副題】** 小説の読みかた——太宰治、〈語り〉の魅力

**【講義内容】** 具体的なテキストの確実な読みと様々な解釈を提示することによって、近代文学作品の読解の方法を示し、自己の読み方に対する自覚と再検討を促す。そうした検討の中で豊かな読みの可能性を追求するとともに、近代の人間と社会、その生き方と思想などの問題を、すぐれて表現されたものとして考察してゆく。

**【講義計画】** 「『人間失格』は笑いながら読め」——日頃、学生たちに話していることである。何より、すぐれた〈悲喜劇〉として出来上がった饒舌な世界を十分に味わうことを勧めたいからだ。「はしがき」と「あとがき」の面白さ、「手記」の語りのサービスぶりなど、いかにも巧妙につくられた作品と見える。その上で、さらに読み手につよく迫るものがあるとすればそれは何か、葉蔵の〈末路〉はどう読むべきか、等々をともに考えよう。  
暗い深刻なイメージに取りまかれた太宰治の作品を、その巧みな〈語り〉の分析を行いながら、生き生きとした表現世界として受けとめ直す。

- 1 導入
- 2 『お伽草紙』
- 3 同上
- 4 同上
- 5 『お伽草紙』から『人間失格』へ
- 6 『人間失格』
- 7 同上
- 8 同上
- 9 同上
- 10 同上
- 11 『人間失格』「如是我聞」
- 12 同上
- 13 「グッド・バイ」、まとめ

できるだけわかりやすく、具体的に作品本文を読み解いていく。重要な箇所を随時ページ数で指摘するので、テキストは必ず指定のものを用意すること。

【評価方法】 定期試験により評価する。欠席過多を適用する。

【テキスト】 太宰治『お伽草紙』（新潮文庫）  
 太宰治『人間失格 グッド・バイ他一篇』（岩波文庫）  
 細谷博『太宰治』（岩波新書）  
 参考図書：細谷博『凡常の発見－漱石・谷崎・太宰』（明治書院）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07116	文学B	選	秋学期	2	1～4	武田 悠一	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 英米小説を読む

【講義内容】 主として英米文学の小説を取り上げて、ある文化的・歴史的条件のもとで文学テキストがどのように生み出され、どのように受容されるかを具体的に検証する。フェミニズム・ジェンダー批評、ポストコロニアル批評などの最近の批評理論の成果を取り入れ、他の文化領域との関係にも目を向けながら、文学を多角的に理解する視点を呈示する。

【講義計画】 エドガー・アラン・ポーの短編小説をとりあげる。「アッシャー館の崩壊」、「ウィリアム・ウィルソン」、「黒猫」、「盗まれた手紙」などの短編を日本語訳で読み、多面的解釈を試みながら、ポーの作品がわたしたちに与えるインパクトとは何かを探っていく。

【評価方法】 学期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】 ポー『黒猫』（集英社文庫）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07121	考古学A	選	春学期	2	1～4	重松 和男	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 考古学入門

【講義内容】 本講義は、考古学の入門として、考古学とはどのような学問なのか、その課題や方法などについて学ぶ。まず、考古学の方法論の特徴などを説明した後、日本の考古学の現状について簡単な概説を行う。さらに、この学問の営みと密接に関連する文化財の保護の問題について論じ、最後に考古学から見た現代生活について考察する。講義にはできるだけスライドやビデオ等を用いる。

- 【講義計画】
- 1) 考古学入門（方法論の特徴など）
  - 2) 日本の考古学の現状（簡単な概説を含む）
  - 3) 文化財保護の問題点
  - 4) 考古学からみた現代生活
- 出来るだけスライド・ビデオ等を用いて説明する。

1、2、3の順に各3～4回。

【評価方法】 筆記試験・出席

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07126	考古学B	選	秋学期	2	1～4	重松 和男	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 アジアの考古学

【講義内容】 本講義では、アジアの考古学を中心に取り上げる。まず、考古学一般についてその位置づけを明らかにすべく、この学問が歴史学及び人類学とどのような関わりを持つのか説明した後、本題としてのアジア地域における考古学の現状を検討する。まず、中国の考古学を扱い、次いでインドの考古学、最後にその他のアジア地域、とくに東南アジアの考古学について学ぶ。講義はできるだけスライドを用いる。

- 【講義計画】
- 1) 中国の考古学
  - 2) インド考古学
  - 3) その他の地域（東南アジアなど）
  - 4) 考古学と歴史学・人類学
- 出来るだけスライドを用いて説明する。

※1、2、3はいずれも簡単な概説

1、2、3の順に各3～4回。

【評価方法】 筆記試験・出席

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07131 07132	日本史A	選	春学期	各2	1～4	青山 幹哉	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 東海地域を移動する中世人

【講義内容】 つい最近まで河海は、険しい山々を越える陸路より大量の人と物資をすみやかに輸送する交通路であり、同時にさまざまな異界へ開かれたルートであった。この講義では、海と河川からの視座に立ち、尾張と伊勢湾を中心とした地域(水域)における人々の動向から、日本中世社会の変貌を見ることにする。

- 【講義計画】
- 1.はじめに一海の時代と陸の時代
  - 2.武士の移動
    - ①伊勢平氏の成立
    - ②美濃・尾張の源氏
  - 3.僧・修験者の移動
    - ①一遍と遊行僧
    - ②異界のルート—熊野
    - ③津島天王社の御師
  - 4.商人の移動

- ① 神人・供御人と伊勢海
- ② 常滑焼と海運
- ③ 十楽の津一桑名

## 5.まとめ

【評価方法】 学期末における筆記試験および随時に課す小レポートにより評価。

【テキスト】 特に指定しないが、参考文献として以下の書を挙げておく。  
 高橋昌明『清盛以前—伊勢平氏の興隆—』平凡社選書85、1984年  
 森浩一他『海と列島文化8 伊勢と熊野の海』小学館、1992年  
 網野善彦『海と列島の中世』日本エディタースクール出版部、1992年  
 綿貫友子『中世東国の太平洋海運』東京大学出版会、1998年  
 永原慶二編『常滑焼と中世社会』小学館、1995年  
 その他、授業の中で適宜紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07136 07137	日本史B	選	秋学期	各2	1~4	青山 幹哉
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 列島を移動する中世人

【講義内容】 本講義では、静息的な日本中世社会像ではなく、多くの人々と大量の物資が海に陸に列島諸国を駆けめぐった、躍動的な中世社会の諸相を考察するため、御家人・御内人といった武士から神仏へ仕える供御人等、職能民・芸能民・流通業者たちの活動を追跡し、東海地域と東国・西国との連関を考察する。

【講義計画】

1. 奥羽・蝦夷の世界
  - ① 奥州藤原氏
  - ② 安東氏と十三湊
2. 関東の内海周辺
3. 瀬戸内海
  - ① 船を家とする民
  - ② 幻の都市草戸千軒
  - ③ 海賊衆
4. 北九州から東シナ海へ
  - ① 博多と対馬
  - ② 倭寇の世界
  - ③ 銭と銀の流れ
5. まとめ

【評価方法】 学期末における筆記試験および随時に課す小レポートにより評価。

【テキスト】 特に指定しないが、参考文献として以下の書を挙げておく。  
 網野善彦『海民と日本社会』新人物往来社、1998年  
 網野善彦・石井進編『中世の風景を読む』全7巻 新人物往来社、1995年  
 海保嶺夫『エゾの歴史』講談社選書メチエ69、1996年  
 国立歴史民俗博物館編『中世都市十三湊と安藤氏』新人物往来社、1994年  
 峰岸純夫・木村茂光編『史料と遺跡が語る中世の東京』新日本出版社、1996年  
 村井章介『中世倭人伝』岩波新書、1993年  
 荒野泰典ら編『アジアのなかの日本史』Ⅲ 東京大学出版会、1992年  
 その他、授業の中で適宜紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07141	東洋史A	選	春学期	2	1~4	西江 清高	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 中国における古代史学の発展

【講義内容】 初期王朝（「夏」・殷・周王朝）時代から中華帝国の成立にいたる「中国」の歴史を、主として文化史的側面から概説する。長らく「中国」人にとっての正統な古代史とされてきた前漢時代の『史記』に代表される歴史記述を、今日の歴史研究、考古学研究の成果を踏まえて再検討していく。そのことを通じて、「正統」とされる歴史観がもつ一元的な見方の限界を知り、多元的な視点の必要性について考えたい。

【講義計画】  
 I 金石学の発展  
 II 金石学と近代考古学の出合い  
 III 中国初期王朝の探索  
 IV 多元的中国文明論

【評価方法】 学期末に試験を実施する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07146	東洋史B	選	秋学期	2	1~4	西江 清高	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 東アジア世界の諸相

【講義内容】 「中国」的世界は、その近隣諸地域との密接な関係のなかで成り立ってきた。本講義は、古代における中国大陸の周縁部、特に中国南部から東南アジア大陸部の諸地域に注目し、四川、雲南、ベトナム、東南沿海部などで発達した地域的文化的文化について講ずる。「正統」な中国史の外に置かれて、文献的記録も少ないこれら諸地域の古代史を、出土資料を利用しながら再構成することが目標である。また、古代における地域間の交流について考えることで、これらの諸地域を東アジア世界のなかで文化史的に位置づけてみたい。

【講義計画】  
 I 「中国」的世界とその周辺  
 II 雲南地方の歴史と文化  
 III 四川地方の歴史と文化  
 IV 中国東南地方の歴史と文化  
 V 中国の山地民  
 VI 中国と海洋世界

【評価方法】 学期末に試験を実施する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

【その他】 広い地域をあつかうので、東アジア、中国周辺地域の地図を利用することが多い。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07151	西洋史A	選	春学期	2	1～4	岡地 稔	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 ゲルマン部族王権の成立

【講義内容】 民族の枠組みをこえて理念上すべての世界を包摂したローマ帝国は、ゲルマン部族の諸王国よりなる個別的世界へダイナミックに変化する。それは古代世界から中世世界への転機を画するプロセスであり、西洋史研究の大きなテーマの一つである。本講ではこの転換期について、古代諸要素の継承と断絶の諸側面、諸民族の社会と文化が融合して創出された個性的な文明としての中世世界、などの観点から概説する。

【講義計画】 ローマ世界の中へ陸続として入りこんだゲルマン人。ローマの普遍帝国に代って個別的世界をきざぎざ始めたゲルマン人指導者たち。彼らの「王権」が立脚していたものは何か。いわゆる西ローマ帝国滅亡の直後の時期に「王国」をきざいだテオドリックとクロヴィスの二人の例をとりあげて、ゲルマン人のもとでの王権成立の問題を考えていきたい。

- I 問題提起——軍隊王権論をめぐる
- II 東ゴート王テオドリック
  - 1 東ゴート族——東ゴート王国
  - 2 テオドリック
  - 3 テオドリックの王権
- III フランク王クロヴィス
  - 1 フランク族——フランク王国
  - 2 クロヴィス
  - 3 クロヴィスの王権
- IV 結び

【評価方法】 試験

【テキスト】 使用せず。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07156	西洋史B	選	秋学期	2	1～4	岡地 稔	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 中世ヨーロッパにおける「王の旅」

【講義内容】 中世ヨーロッパでの政治・経済・支配など、総じて「くに」のありようを考察するさい、今日的常識にとらわれているとまったく理解できないことがあるが、王は常に旅をして統治しなければならなかったということも、そうした事項に属するであろう。本講では「王の旅」、即ち巡行王権の政治・経済・法的な意味合いを分析・解明することをおして、中世ヨーロッパでの国家統治のありようを解説する。

【講義計画】 意外に思われるかもしれないが、中世ヨーロッパのくにぐににおいては「首都」はなく、王たちは年がら年じゅう旅をしていた。「税を消費するために」とある歴史家はいう。本当だろうか。それより、首都もなく、旅ばかりして、王たる者、いったいどうやってくにを治めたのだろうか。古代ローマには執政官(コンスル)、独裁官(ディクタトル)、元老院、民会など、ずいぶんとしっかりした官職や政治組織があった。そういえばヨーロッパも近世、絶対主義の時代はというと、官僚と常備軍がその指標だった。あれれ、じゃあ、中世には官僚つまり役人はいなかったの？ それじゃあ本当にいったいどうやって中世の王たちはくにを治めたの？——この講義では、中世ヨーロッパの政治・経済・支配などにかかわるいくつかの小テーマを積み重ねていき、最終的に上記の問題を考えるとところまでもっていきたいと思っています。

序

- ①人々は旅先の王たちに度々出会った——だから白雪姫も王子様に会えた  
I 実態と問題提起

- ②巡る力は王者のしるし
- ③発つ王、後に何も残さずベンベン草もはえないのか？

II 小テーマ

- ④一枚の銀貨から——金は天からまわらない？
- ⑤国税なければと酷税あり
- ⑥高札のない風景を考察する

III 考察

- ⑦王たちはなぜ旅をしたのか？

【評価方法】 試験

【テキスト】 使用せず

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07161	美術A	選	春学期	2	1～4	石黒 淳	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 インドに始まり中国、東南アジア、日本といったアジア諸国で花開いた仏教美術について、スライドを使用しながら講義します。

仏教美術は西紀前5～6世紀頃インド東北部に生まれた釈尊が説いた仏教を背景にした宗教美術です。仏教美術を理解するために仏教についての基礎知識と仏教に大きな影響を与えたバラモン教と呼ばれる宗教について講義します。また仏教やバラモン教を生んだインドやインド周辺国（パキスタン、ネパール、スリランカ）の風土についても講義します。

【講義計画】

- (1) 仏教美術概説
  - (2) 仏教以前のインドの宗教と宗教美術
  - (3) I 仏教の創始者釈尊の生涯(1)
  - (4) II 〃 (2)
  - (5) 仏教の創始者釈尊の生涯の美術（仏伝図）
  - (6) I 釈尊の前生物語(1)
  - (7) II 〃 (2)
  - (8) 釈尊の前生物語の美術（本生図）
  - (9) I 仏像の誕生・ガンダーラ美術
  - (10) 全体のまとめ
- 以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 筆記試験で評価する。出席を重視する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07162	美術A	選	秋学期	2	1～4	池田 洋子	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 日本のお水墨画の展開

【講義内容】 本講義は、東洋の古代美術について理解を深めることを目的とし、代表的作品を通して美術の歴史を論じていく。

【講義計画】

日本中世の時代に特筆すべき絵画ジャンルである“水墨画”が、中国において何時何処で出来上がり、どの様に発展したかを知った上で、日本での受容と変容について水墨画作品と作家の特性を考察しながら講義する。

1. 中国の水墨画
2. 12世紀日本の水墨画受容
3. 13世紀日本の水墨画受容

4. 14世紀の日本水墨画界
5. 15世紀に日本で制作された水墨画
6. 16世紀日本の水墨画の変容
7. 17世紀における日本の水墨画の成立
8. まとめ

【評価方法】 筆記試験又はレポート試験  
出席数も考慮する。

【テキスト】 カラー版「日本美術史」辻惟雄監修 美術出版社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07165	美術B	選	秋学期	2	1~4	石 黒 淳	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【講義内容】 インドの古代初期仏教美術について講義します。インドの仏教美術は西紀前1~2世紀頃から運営された仏塔（ストゥーパ）の欄楯飾浮彫りから本格的に開始されます。カルカッタ・インド博物館が所蔵するパールフトのストゥーパの欄楯遺品やサーンチャーに現存するストゥーパの欄楯の塔門遺跡などに表現された仏伝図や本生図及び動植物の装飾浮彫りなどについて主題の表現の特色など細部にわたり講義します。

【講義計画】

- (1)インドの古代初期仏教美術の概説
- (2)パールフトの欄楯に表された仏教美術
- (3)パールフトの欄楯性の男神、女神像
- (4)パールフトの欄楯性の仏伝図・本生図
- (5)パールフトの欄楯貫石の装飾浮彫り
- (6)パールフトの欄楯笠石の装飾浮彫り
- (7)サーンチャーの遺蹟について
- (8)サーンチャーの塔門浮彫り・東門、南門
- (9)サーンチャーの塔門浮彫り・西門、北門
- (10)全体のまとめ

以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 出席を重視し、筆記試験で評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07166	美術B	選	春学期	2	1~4	池 田 洋 子	
他の科目との関連						履 修 対象学科	全

【副 題】 日本古代美術史

【講義内容】 本講義は、東洋の美術に焦点を合わせ、具体的に作品をとりあげてその表現の仕方と時代背景との関連を考察する。

【講義計画】 縄文時代に培われた造形意識や造形感覚をもとに、半島を経由した中国の高度な造形作品や造形意識に触発されて、新たな作域や技法の作品制作が始まる。それらはやがて日本の感覚に沿った作品に次第に変容していく。平安時代までのこの事実を認識することと各々の作品の特徴や造形意図に就いて講義する。

1. 日本美術全体の包括的な展開
2. 縄文土器の造形性
3. 飛鳥美術
4. 白鳳美術
5. 天平美術
6. 平安前期美術
7. 平安後期美術

8. 日本古代美術のまとめ

【評価方法】 筆記試験又はレポート試験  
出席数も考慮する。

【テキスト】 カラー版「日本美術史」辻惟雄監修 美術出版社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07171 07172	音楽A	選	春学期 秋学期	各2	1～4	DUNPHY Walter	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 キリスト教音楽

【講義内容】 本講義は宗教音楽を中心に扱う。具体的にはベートーベン、ブラームス、ホルスト、ブリテン、ハーバーなどの宗教音楽を紹介し、それぞれの作品の成立に影響を及ぼした時代状況について学ぶ。また西洋の宗教音楽といえば「キリスト教音楽」を指すが、それにはミサ曲、オラトリオなどいくつもの種類があるが、とりわけミサ曲について、その構成を説明し、さまざまな作曲家による作品を紹介する。

【講義計画】 講義を進めつつ、紹介された曲を実際に鑑賞する。  
中心とする曲は

- Bach・mass (B min)
- Mozart・Requiem
- Britten・War Requiem

【評価方法】 出欠、レポートおよび期末試験により評価する。

【テキスト】 参考になるミサ・レクイエムのテキストのプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07176 07177	音楽B	選	春学期 秋学期	各2	1～4	西崎 専一	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 音楽を通した比較文化論の試み——音楽は、人間とその文化の特質をどのように現してきたか

【講義内容】 音による意思や情報の簡単な伝達から高度に練り上げられた芸術的表現の世界まで、音楽の姿は、地域・歴史・文化的な広がりや階層に従って多彩な様相を見せます。また時間の経過のなかで生まれ、持続し、そして消えてゆく音楽のあり方は、それを担う人々の時間意識やひいては生命観を映し出す鏡でもあります。

本講義では、西洋の芸術音楽だけでなく、アジアやヨーロッパ周辺地域の音楽文化をも視野に入れながら、人と音楽の関わりが示す多様な世界を訪ね、「人間が音楽する」ことの意味を考察します。

講義は、「講義計画」に示した3つの問題を柱に進めていきますが、常に具体的な事例を提示し、映像資料などを用いることによって、受講生の理解を容易にしていきたいと考えています。

【講義計画】 半期の講義を次の3つのテーマで構成します。

1. 「音楽家とはどのような人間なのか」(1～4)  
職業的に独立した領域としての音楽が確立する以前に、あるいは音楽という概念すら存在しない民族社会において、音楽家(音楽を専業として行う人間)とはどのような存在であったのかを考えることにより、音楽の「原像」に迫ります。
2. 「音楽と時間/ガムランとベートーヴェンの間で」(1～4)  
ガムラン(インドネシアの民族音楽)とヨーロッパ近代音楽の構成を比較しながら、音楽の示す時間性の現れ方の相違を文化的に比較考察します。
3. 「音楽と表現/バッハは何を表現したのか」(1～4)  
音楽、特に芸術音楽が何らかの「表現」を宿していることはいまでもありません。では音楽は「何を」

表現するのか。バッハの作品を例に考察し、音楽学的な研究手続きへの案内も試みます。

- 【評価方法】 定期試験の成績、および講義出席状況などを総合的に判断して評価します。
- 【テキスト】 「音楽学序説」(西崎・著)からのいくつかの章をはじめ、必要な資料をプリントで配布する予定です。
- 【その他】 コンスタントな講義出席を希望します。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07181	法学A	選	春学期	2	1~4	山田 秀	
他の科目との関連						履修対象学科	全

- 【副題】 文化現象としての法
- 【講義内容】 法と呼ばれるものが人間の生存のあり方とどのように関連して働いているのかという基本的問題を、様々な観点から考察する。具体的には、文化現象としての法、社会統合に占める法の位置、言語と法、法の存在様式、生成発展過程から眺められた法を論じ、最後に、法、政治、教育、倫理といった一見独立したものが根底において人間本性の法則としての自然法に支担されている現実に注目し、統合的人間論からの法学入門としたい。
- 【講義計画】 以下の順序に講義を進める予定。
- I. 文化における法の位置
    1. 「文化」とは何か
    2. 文化の一部としての法：法領域と他の文化領域との関連
  - II. 社会統合における法の位置
    1. ヒトから人間へ：直立二足歩行と言語並びに抽象能力
    2. 社会統合(1)：社会化と「良心」
    3. 社会統合(2)：社会化と言語
    4. 社会統合(3)：社会化と社会統制
    5. 社会統合(4)：社会統制と言語
    6. 社会統合(5)：社会契約論
  - III. 法発展史
    1. 万民法(ius gentium)の発展
    2. 国際法の誕生
    3. 近代法の登場及び立憲主義思想
    4. 近代法の変容：(1)近代法原則の修正、(2)自由国家から社会国家へ、(3)社会法の成立
    5. 現代法の課題
  - IV. 法、政治、教育、倫理：その担い手と存在意識
- 【評価方法】 定期試験により評価する。
- 【テキスト】 教科書は指定しない。講義中に適宜プリントを配布する。主な参考文献は以下の通り。
- I. クライド・クラックホーン『人間のための鏡』(サイマル出版会)  
祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書)  
碧海純一『法と社会』(中公新書)
  - II. 江原昭善『人間はなぜ人間か』(雄山閣出版)  
河合雅雄『サルからヒトへの物語』(小学館ライブラリー)  
碧海純一『新版法哲学概論 全訂第二版』(弘文堂)  
安田ほか編『基礎社会学 第I巻社会的行為』(東洋経済新報社)  
ソボクレス『アンティゴネー』(岩波文庫)
  - III. 田畑茂二郎『国際法』(岩波全書)  
ヨハネス・メスナー『自然法』(創文社)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07186	法学B	選	秋学期	2	1~4	山田 秀	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 法学入門

【講義内容】 法学への入門として、法の社会規範性の問題（法の定義、法と隣接社会諸規範）、法規範の特色と構造（法と強制力、社会統合作用における法の役割、法規範の構造）、法源の諸形態（法の分類、制定法、慣習法、判例法）、法の適用と解釈（法の適用と裁判、法解釈の意義、法解釈の方法）を中心に講義が行われる。特に、社会生活における人々の必要から法決断（立法、行政、司法それぞれの場における）が下されることの理解を目指したい。

【講義計画】 以下の事項を取り上げる。  
 I. 法の社会規範性  
 i) 法の定義 ii) 法と習俗 iii) 法と道徳  
 II. 法規範の特色と構造  
 i) 法と強制力（自然債務、国際法の問題） ii) 社会統合作用における法の役割 iii) 法規範の構造  
 III. 法源の諸形態  
 i) 法の分類一般 ii) 制定法 iii) 慣習法（物的担保制度の問題） iv) 判例法（先例拘束性の原則、判例変更） v) 条理（事物の本性）  
 IV. 法の適用と解釈  
 i) 法の適用と裁判 ii) 法解釈の意義 iii) 法解釈の方法（文理解釈、体系解釈、目的論的解釈、その他）  
 V. 現代法の課題

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 五十嵐清『法学入門』（一粒社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07187	法学B	選	秋学期	2	1~4	栗本 雅和	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 法学への入門として、法の社会規範性の問題（法の定義、法と隣接社会諸規範）、法規範の特色と構造（法と強制力、社会統合作用における法の役割、法規範の構造）、法源の諸形態（法の分類、制定法、慣習法、判例法）、法の適用と解釈（法の適用と裁判、法解釈の意義、霸王解釈の方法）を中心に講義が行われる。特に、社会生活における人々の必要から法決断（立法、行政、司法それぞれの場における）が下されることの理解を目指したい。

【講義計画】 「法学」に関する講義であるが、きわめて広範囲の内容のものを、半年間で教え伝えることは、不可能である。  
 したがって、1回の講義ごとに、数個の具体的事例・判例を示しつつ、そこに含まれる問題点とその解決策を受講生諸君とともに、考えていくやり方で、法学の何たるかを理解していただくとした。

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 使用予定であるが、具体的には、開講前に指示する。  
 六法用意のこと。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07191	日本国憲法	選	春学期	2	1~4	山田 秀	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 日本国憲法の体系的理解への入門

【講義内容】 憲法とは何か、日本国憲法の基本理念、それは私たちの現実の生活の中でどのような働きをしているかを考察する。そのため、欧米を視野に入れつつ近代憲法から現代憲法への展開にふれた上で、わが国の憲法について、明治憲法の特質、日本国憲法の成立と展開の過程、国民主権と象徴天皇制、平和主義、人権の保障、統治の仕組、憲法保障の諸問題について述べる。

【講義計画】 以下の順序で講義を展開する予定である。

- I 憲法総論
  - (1) 憲法とは何か——その歴史的現象形態、憲法の諸義、立憲主義原理略述。
  - (2) 日本国憲法略史——大日本帝国憲法と日本国憲法。
  - (3) 現行憲法の諸原則。
- II 日本国憲法概説
  - (1) 人権保障
    - a) 基本的人権の構造（的理解）と公共の福祉、b) 自由権概説 c) 社会権概説、d) 国務請求権と参政権
  - (2) 統治機構
    - a) 国会、b) 内閣、c) 裁判所、d) 財政と地方自治
  - (3) 憲法保障
    - a) 抵抗権と国家緊急権、b) 違憲審査制、c) 憲法改正

【評価方法】 定期（筆記）試験により評価する。

【テキスト】 小嶋和司・大石眞著『憲法概観』有斐閣

【その他】 参考文献は、講義中に紹介する。受講者数が100名以下の場合、毎回小テスト（クイズ形式を含む）を実施する予定である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07192	日本国憲法	選	秋学期	2	1~4	山田 秀	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 日本国憲法の概観、及び、その批判的考察

【講義内容】 憲法とは何か、日本国憲法の基本理念、それは私たちの現実の生活の中でどのような働きをしているかを考察する。そのため、欧米を視野に入れつつ近代憲法から現代憲法への展開にふれた上で、わが国の憲法について、明治憲法の特質、日本国憲法の成立と展開の過程、国民主権と象徴天皇制、平和主義、人権の保障、統治の仕組、憲法保障の諸問題について述べる。

【講義計画】 大略以下の順序で講義を展開する予定。

- I 憲法総論
  - (1) 憲法とは何か——国家とは何か——国家と憲法の関係。
  - (2) 基本的人権とは何か——人権はどのように存在するのか。
- II 日本国憲法概説
  - (1) 日本国憲法略史。
  - (2) 現行憲法の諸原則。
  - (3) 統治機構。
  - (4) 人権保障の体系とその実効的制度的保障。
  - (5) 憲法保障論。

【評価方法】 定期（筆記）試験により評価する。

【テキスト】 伊藤正己『憲法入門』（第四版）、有斐閣  
野中・江橋編著『憲法判例集』有斐閣

【その他】 参考文献は、講義中に紹介する。受講者数が100名以下の場合、毎回小テスト（クイズ形式を含む）を行う予定である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07193	日本国憲法	選	春学期	2	1～4	中谷 実
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 この国の形と、この国が守るべきこと

【講義内容】 憲法とは何か、また日本国憲法の基本理念、こころとは何であり、またそれは私たちの現実の生活の中でどのような働きをしているかを考察する。そのため、欧米を視野に入れつつ近代憲法から現代憲法への展開にふれた上で、わが国の憲法について、明治憲法の特質、日本国憲法の成立と展開の過程、国民主権と象徴天皇制、平和主義、人権の保障、統治の仕組みについて述べる。

【講義計画】

- 1 憲法とは何か
- 2 立憲主義の展開
  - 2-1 欧米における展開
  - 2-2 明治憲法から日本国憲法へ
- 3 この国の形——国民主権の実現——
  - 3-1 天皇
  - 3-2 国会
  - 3-3 内閣
  - 3-4 裁判所
- 4 この国が守るべきこと——平和主義と人権——
  - 4-1 平和主義
  - 4-2 自由権
  - 4-3 平等権
  - 4-4 社会権

できるだけ資料を配布し、また、ビデオを用いてイメージを得るようにしたい。

【評価方法】 定期テストによる。

【テキスト】 参考文献 中谷実編著『ハイブリッド憲法』勁草書房 2900円

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07196	政治学A	選	春学期	2	1～4	友岡 敏明
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 政治の此方に

【講義内容】 本講義では、政治の本質や政治学上の基礎的な概念をまず押さえたのち、その具体的な理解のために、冷戦前後に焦点を合わせた現代政治の状況や問題を取り上げて説明する。基礎的な概念理解においては、歴史上に現われた代表的な政治理論を紹介し、主に「国家」と「権力」の概念を中心に説明する。その後、冷戦後の世界における日本の位置と役割を理解するために、米ソの対立を軸とする冷戦の本質と歴史について学ぶ。

【講義計画】 副題の「政治の此方に」は、英国の歴史哲学者クリストファー・ドーソンの『政治の彼方に』（1939年）をモジッタものである。「彼方（かなた）に」ではなく「此方（こなた）に」とした理由は、政治に対する

関心の極度の低下という最近の傾向に警鐘を鳴らし、「政治」を自分に取り返すことへと激励するためである。「政治の彼方に」は、心の中まで覗き見るファシズムが世界を席卷する中でこそ、「政治」よりも高い価値が存在すると叫ぶ意味はあったが、時移って「政治」を他人事のように批判し、軽蔑し、あるいは無視する潮流の中では、むしろ「政治」に内在する本質的価値を強調し、「政治」への参加を呼び、「政治」からの逃避を批判する必要がある。

確かに、国民の「政治」からの逃避や国民の「政治」に対するシラケの原因は、政治家の方にも社会の構造変化にもあるし、国民の側でのさまざまな無知・誤解にもとづく「はきちがい」にもある。しかし、往々にして、政治家が悪いから国民が政治に無関心になるのだとか、政治家がだらしない政治をするから国民が政治に背を向けるのだと、すべて政治家のせいにして、自分は悪くないという態度にわれわれは安住してはいないだろうか。

特に、現在は「民主主義」の時代であって、政治を営む最も大事な基礎は国民の考えであって、国民が政治から隔離されていた絶対主義時代のように政治家を批判するだけではすまなくなっている。例えば、福祉を拡充するなら税金が高くなるがどうするか、といった少し単純化した選択肢だが、この種の選択肢が無数に国民を取り巻いているし、この決定を行なうのが政治である。「民主主義」は、こうしたフレームワークの中で選択肢の提示者を政治家とし、提示された選択肢の最終的な決定者を国民とするのであるが、通常は、法律ができたからそれに従うといった、「政治」をお上（権力者）の仕事として受動的にこれを捉えがちである。それは「政治」に対するシラケの一つの現象に他ならない。そうではなく国民が「政治」の基底にある、選択肢の最終決定は国民にある、したがってその決定の結果と責任は国民に帰属するのだ（順法の根拠）という、その仕組みを絶えず確認しなければならない。この活性化に向けて、「政治」に関する少々基礎的な学習を歯を食いしばって成し遂げることにしよう。

講義では、「政治」を考え、「政治」を自らに引き寄せる際の努力の一助として、事例を交えながら政治学上の基礎的な概念について解説し、その意味の確定に主眼をおくことにする。以下のように進める。

- (1) 政治（妥協・創造・強制）とその政治のシステム（入力・出力・還流の構図）
- (2) 国家（ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの合成）の消滅？
- (3) 権力と権威の正確な意味
- (4) 政党とは？（政策決定と国民の架橋、圧力団体との違い）
- (5) 選挙の意味と代表の実質化
- (6) 政治と官僚（ファンクションとリクルートメントとトレーニング）
- (7) 軍事と政治（国の安全とシビリアン・コントロール）

【評価方法】 問題意識への真摯な取り組み、したがって授業への取り組みにおける誠実度を参照し、定期試験における達成度で見える。

【テキスト】 特に指定せず。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07197	政治学A	選	春学期	2	1~4	吉田 達志	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 冷戦の本質とその歴史

【講義内容】 本講義では、政治の本質や政治学上の基礎的な概念をまず押さえたのち、その具体的な理解のために、冷戦前後に焦点を合わせた現代政治の状況や問題を取り上げて説明する。基礎的な概念理解においては、歴史上に現われた代表的な政治理論を紹介し、主に「国家」と「権利」の概念を中心に説明する。その後、冷戦後の世界における日本の位置と役割を理解するために、米ソの対立を軸とする冷戦の本質と歴史について学ぶ。

【講義計画】

- (1) 政治の本質（ホッブズの理論を中心に）
- (2) ソ連による東欧の共産化と西側の対応
- (3) ベルリン封鎖と朝鮮戦争
- (4) ソ連の平和攻勢とグレス外交
- (5) 核の時代とキューバ危機
- (6) 国際政治の多極化
- (7) 米ソの核対決
- (8) 日本の安全保障と国際貢献

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 使用せず。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07201	政治学B	選	春学期	2	1~4	宮川 佳三	
他の科目との関連	国際関係論の基礎					履修対象学科	全

【副題】 20世紀の国際社会と日本：戦争と平和

【講義内容】 本講義では、現代政治の課題と問題について、国内および国際政治の両面で検討する。国内に目を向けるならば、現代日本社会が直面する政治問題について、それを日本近代の歴史と文化の中に位置づけて検討し、とくに問題性を解明するための鍵となっている憲法について論ずる。また国際政治問題については、とりわけ国際平和のための国際機構や組織の動向について概観し、そうした組織の問題点やあるべき姿を検討する。

【講義計画】 冷戦が終って、約10年が経過した。そして21世紀に足を踏み入れた。第二次大戦が終わった後、日本はアメリカとの関係では常に従属的であった。占領政策の下で、更に冷戦状況の中での日米安全保障条約による同盟関係の中で、日本は国際社会での行動に制約を受けてきた。脱冷戦の時代、実に21世紀に於いて、日本は国際社会でいかなる生き方をすればいいのであろうか。第三の「戦後」のための日本の在り様を考えるために20世紀の国際社会を「平和」と「戦争」の両面で検討し、特に日本と国際社会——特に東アジア・東南アジアの国に——との関係を歴史的に概観し、日本の「軍国主義」の過去を検討し、敗戦の結果の日米関係の枠組の中で戦後の日本を考え、21世紀の日本の国際社会への貢献のための知的作業をする。  
国内政治・経済と国際政治・経済を組み合わせ、相互依存の度合がますます深まる国際社会を見るために、我々の国の中でおこっている事柄、国際社会において日々おこっていることに目を向け、考える機会を持つ。

【評価方法】 厳格な出席、小テスト（数回）、中間レポート、定期試験により評価を出す。

【テキスト】 適宜に新聞記事・論説、雑誌記事・論説のプリント。

【その他】 講義中のPHS・携帯電話の使用厳禁。私語の厳禁。講義中の入室・退室厳禁。日常生活上のマナーを身に付けること。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07202	政治学B	選	秋学期	2	1~4	吉田 達志	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 現代日本の政治問題

【講義内容】 本講義では、現代政治の課題と問題について、国内および国際政治の両面で検討する。国内に目を向けるならば、現代日本社会が直面する政治問題について、それを日本近代の歴史と文化の中に位置づけて検討し、とくに問題性を解明するための鍵となっている憲法について論ずる。また国際政治問題については、とりわけ国際平和のための国際機構や組織の動向について概観し、そうした組織の問題点やあるべき姿を検討する。

【講義計画】 (1)国際化の時代の日本文化  
(2)大日本帝国憲法の成立過程と特徴  
(3)日米戦争  
(4)日本国憲法の成立過程  
(5)国民主権と天皇  
(6)第9条と日本の防衛  
(7)政教分離と信教の自由  
(8)三権分立制の変容  
(9)民主主義の陥穽  
(10)日本近代の文学的考察

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 参考書として、吉田達志著『文学空間の中の日本近代』（高文堂出版社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07206	文化人類学A	選	春学期	2	1～4	吉田 竹也	
他の科目との関連	文化人類学Bと併せて履修することが望ましい					履修対象学科	全

【副題】 文化人類学基礎論

【講義内容】 文化人類学の基本的な考え方を、「異文化理解」をめぐる問題に焦点を当てて解説していく。人間にとっての文化の意義や、「文化」「異文化」などの概念について説明し、文化相対主義と自文化中心主義という2つの立場について論じたのちに、異文化研究の具体例をいくつか検討することを通して、文化人類学という学問に固有の視点を明らかにしようとする。

【講義計画】 文化人類学は、人間の生活様式あるいは文化・社会の体系を総合的に捉えようとする、きわめて幅の広い学問である。半年間の講義では、そうした文化人類学の扱う諸問題の全体に触れることは不可能である。そこで「文化人類学A」では、この学問の基本的な認識や考え方のスタイルを、「異文化理解」という問題に関わらせて明らかにすることに焦点を絞る。すなわち文化人類学が「異文化理解」という問題をどのように考察するのかを、いくつかの具体例を通して明らかにすることで、この学問に固有な視点を明確にしようとするのである。

異文化理解の具体例としては、①家族・結婚観、②セクシュアリティ論、③けがれ、④風景と空間、⑤翻訳の問題、⑥嬰児殺し、などのトピックをとり上げていく予定である。

【評価方法】 出欠状況、受講態度、レポート、期末試験などを総合的に判断して評価する。

【その他】 文化人類学的思考のトレーニングという性格の講義なので、文化人類学に興味のある学生は1年次に履修してほしい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07211	文化人類学B	選	秋学期	2	1～4	吉田 竹也	
他の科目との関連	文化人類学Aを履修しておくことが望ましい					履修対象学科	全

【副題】 文化人類学各論

【講義内容】 世界観、価値観、生活習慣、宗教、親族、政治、経済など幅広い領域から具体例を取り上げつつ、人間の営みの総体としての文化を研究する文化人類学の視点について説明していく。単に文化人類学のおもな研究や理論を紹介するだけでなく、従来の議論にたいして近年どのような批判的再検討がなされているかについても触れ、文化人類学の現状を明確にしようとする。

【講義計画】 文化人類学の幅広い研究の中から、いくつかのトピックをとり上げて論じていく。具体的には、①19世紀の人類学と進化理論、②「未開人」という認識の問題、③「民族」概念の問題、④「伝統」概念の問題、⑤文化人類学とジェンダー・セクシュアリティ研究、⑥親族論（家族論、出自論、縁組論など）、⑦宗教と世界観、⑧政治と経済、などの中から、適宜検討する課題を選んで論じていく予定である。

【評価方法】 出欠状況、受講態度、レポート、期末試験などを総合的に判断して評価する。

【その他】 文化人類学の基礎知識について論じるので、文化人類学に興味のある学生は1年次に履修してほしい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07216 07217	社会学A	選	秋学期	各2	1~4	森下 伸也
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 逆説思考の社会学

【講義内容】 この授業の目的は現代社会の構造や社会変動のメカニズムを社会学的に分析することにある。特に「規範」および「制度化」というふたつの社会学的概念を中心に、社会規範の定着化プロセスとその関連促進要因、また規範が制度化されることによる社会的影響等について焦点を絞り考察する。我々の社会生活を無意識的かつ強制的に枠組化するエージェントは何か、なぜ一般的にルール化された「望ましさ」からの逸脱が困難なのか、そして社会規範は我々の価値意識形成や行動をどのように拘束するのかについて考える。

【講義計画】 社会学の真骨頂は鋭くスイングする逆説思考の快感にある。逆説思考の意義を論じたあと、理論社会学の概念や学説に素材を得ながら、逆説思考のテクニックを種々伝授し、それを日常生活に生かす知恵を説きあかす。

0. 社会学とは何か
1. 社会決定論とは?
2. 逆説思考の意義
3. 予言の自己成就
4. ミクロマクロ問題
5. 潜在的機能の概念
6. 逆説としての近代

【評価方法】 筆記試験を学年末に行い、その得点によって成績を評価する。

【テキスト】 森下・宮本・君塚『パラドックスの社会学』（新曜社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07221 07222	社会学B	選	春学期	各2	1~4	阪本 俊生
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 近代化と社会学理論

【講義内容】 近代化と社会の変容という観点から社会学の諸理論を考える。このことを通じて、社会学がもっているさまざまな問題意識を近代化との関連で概観してゆく。講義する具体的な内容に関してはほぼ次の通り。はじめに：社会学的問題意識の誕生について。自殺と社会：デュルケムの『自殺論』から近代化と社会の可視化の試み。社会学の実証主義について。宗教と近代化：ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』にみる内在化された近代の物語。ナチズム：フロムの『自由からの逃走』が見ようとした近代化とナチズムとの関連。権威主義的パーソナリティとは。個人主義と私秘化：エリアスの諸著作から私秘化と個人主義批判。他者志向型：リースマンの『孤独な群衆』とセネットによるその批判。ポストモダン社会における社会関係とナルシズムの問題。近代化と欲望：ジラルルの『欲望の現象学』にみる近代人の欲望と人間関係。近代化と嫉妬、羨望の鎮静問題。近代社会と経済：K.ポランニーの社会論とデュビュイとデュムシエルの経済人類学。都市と社会：ジンメルからゴフマン、ロフランドに至るミクロ都市社会学を通じて近代都市の社会関係を考察する。

【講義計画】 近代化と社会の変容という観点から社会学の諸理論を見てゆく。このことを通じて、社会学がもっているさまざまな問題意識を近代化との関連で概観してゆく。講義する具体的な内容はほぼ次の通り。ただし、順不同。

- 社会学的問題意識の誕生について
- 自殺と社会：デュルケムの『自殺論』
- 近代化と社会の可視化の試み
- 社会学の実証主義
- 宗教と近代化：ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』にみる近代の物語

ナチズム：フロムの『自由からの逃走』が見ようとした近代化とナチズムとの関連  
 権威主義的パーソナリティー  
 個人主義と私秘化：エリアスの諸著作から私秘化と個人主義批判  
 他者志向型：リースマンの『孤独な群衆』とセネットによるその批判  
 ポストモダン社会における社会関係とナルシズムの問題  
 近代化と欲望：ジラルルの『欲望の現象学』にみる近代人の欲望と人間関係  
 近代化と嫉妬、羨望と鎮めの問題  
 近代社会と経済：K. ボランニーとデュビュイとデュムシユルの経済人類学  
 都市と社会：ジンメルからゴフマン、ロフランドに至るミクロ都市社会学と近代化の問題

【評価方法】 学期末に記述式の試験を行なう。

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
07226 07231	経済学A・B	選	春学期 秋学期	各2	1~4	林 尚 志
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科 全

【副 題】 経済学を使って考える

【講義内容】 経済学A

本講義では、ミクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を論じる。家計や企業などの経済主体が各々の目的に沿って行動している現代社会において、市場（価格）メカニズムはどのように機能し、どのような意味で効率的な資源配分を実現するのか。その一方で、市場メカニズムはどのような限界点、問題点をかかえているのか。これらの疑問に関して平易に解説を行う。

経済学B

本講義では、マクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を論じる。まず、一国経済全体の活動水準が国民所得という概念を用いて記録されることを示した後、その水準が決定される仕組み、並びに関連する諸要因を考察する。すなわち、実物市場と貨幣・資産市場がどのようにに関わり合いながら所得水準を決定するのか、マクロ経済政策がその水準にどのような影響をもたらすのかという点に関し、平易に解説を行う。

【講義計画】

この講義では、経済学の基本的な考え方を学びながら、経済に関する様々な疑問を取り上げ、これらに対して解答の手がかりを与えていく。たとえば、「コンパ代やバイト代など、モノやサービスの値段は、一体どのように決まるのか?」、「厳しい就職戦線が続いているが、なぜ深刻な不況に陥ってしまったのか?」等々。

これらとともに考えながら、(1) 経済学は暮らしの重要な側面である“経済”をどのようにとらえているのか? (2) 経済学は、社会のかかえる課題に対して、どのような解決の糸口を与えてくれるのか? といった点を学んでいこう。

1. はじめに：経済とは何か?
  - \* 「経済学」は経済をどのようにとらえてきたのか?
  - \* ミクロ、マクロという2つの視点とは?
2. 価格メカニズムとその役わり
  - \* モノの値段が決まるしくみは?
  - \* 価格メカニズムはなぜすばらしい? また、その問題点は?
3. マクロ経済と所得の決まり方
  - \* 経済全体は、どうとらえられるのか?
  - \* 「モノ」と「おカネ」の流れから、景気の決まり方を考えると?
4. 日本経済はどのように変化してきた?
  - \* 量的変化： 経済成長のトレンドと平成不況
  - \* 質的变化： 産業構造の高度化と産業空洞化の懸念
  - \* 今後の課題： バブルの崩壊と経済再生に向けての課題

【評価方法】 定期試験、および随時行われる予定の小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 テキストは用いないが、以下を主要参考文献として用いる予定。

- \* 伊藤元重著『入門 経済学』（日本評論社）1988年。
- \* 篠原総一他著『初歩から学ぶ経済入門』（有斐閣ブックス）1999年。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07227 07232	経済学A・B	選	春学期 秋学期	各2	1～4	大谷津 晴夫	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】

経済学A

本講義では、ミクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を論じる。家計や企業などの経済主体が各々の目的に沿って行動している現代社会において、市場（価格）メカニズムはどのように機能し、どのような意味で効率的な資源配分を実現するのか。その一方で、市場メカニズムはどのような限界点、問題点をかかえているのか。これらの疑問に関して平易に解説を行う。

経済学B

本講義では、マクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を論じる。まず、一国経済全体の活動水準が国民所得という概念を用いて記録されることを示した後、その水準が決定される仕組み、並びに関連する諸要因を考察する。すなわち、実物市場と貨幣・資産市場がどのように関わり合いながら所得水準を決定するのか、マクロ経済政策がその水準にどのような影響をもたらすのかという点に関し、平易に解説を行う。

【講義計画】

テキストに準拠して講義を行うが、経済学Aでは主にミクロ経済学の部門を、経済学Bでは主にマクロ経済学部門を取りあげていく予定でいる。

随時各章末の演習問題の中から幾つか選んで小テストを行う予定。

【評価方法】

講義時間内に行う小テストと定期試験の成績を総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】

伊藤元重『入門経済学』日本評論社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07228 07233	経済学A・B	選	春学期 秋学期	各2	1～4	花井 敏	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】

経済学とは何だろう

【講義内容】

経済学A

本講義では、ミクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を論じる。家計や企業などの経済主体が各々の目的に沿って行動している現代社会において、市場（価格）メカニズムはどのように機能し、どのような意味で効率的な資源配分を実現するのか。その一方で、市場メカニズムはどのような限界点、問題点をかかえているのか。これらの疑問に関して平易に解説を行う。

経済学B

本講義では、マクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を論じる。まず、一国経済全体の活動水準が国民所得という概念を用いて記録されることを示した後、その水準が決定される仕組み、並びに関連する諸要因を考察する。すなわち、実物市場と貨幣・資産市場がどのように関わり合いながら所得水準を決定するのか、マクロ経済政策がその水準にどのような影響をもたらすのかという点に関し、平易に解説を行う。

【講義計画】

春学期は、市場経済メカニズムについて基本的な知識を習得する。

1. 希少性と選択、2. 機会費用の概念、3. 需要と需要曲面、4. 供給と供給曲面、5. 市場均衡と価格、6. 価格の役割、7. 差別価格、8. 需要・供給曲線のシフト

秋学期は、マクロ経済の基本的知識を学習する。

1. GDPとは 2. GDPの決定メカニズム 3. いろいろな乗数 4. 投資の考え方 5. 貨幣と利率 6. IS-LM曲線と政策分析

【評価方法】

春学期、秋学期ともに、期末テストの成績とクラス・ディスカッションへの参加度合を総合的に評価する。

【テキスト】 用いない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07236 07237	数学A	選	春学期 秋学期	各2	1~4	春藤 修二	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 「数とは何か」

【講義内容】 諸君は高校までに実に多くの数学的知識を学んでいる。しかしたとえば有理数とはどのような数であるか適確に答えられない人が多い(考えてみて下さい)。よく知っている対象(数・図形)を用いて、それらについて“考える”ことを講義の目標としたい。従って数学の好き嫌い、予備知識などは全く問わないので、これ迄受けてきた数学教育のまとめとして受講を勧めたい。但し考えることを忘れないでほしいと思います。

【講義計画】 上記の目標に向けて、次の項目に従って授業を進める。

- I. 数について  
 (1)数のイメージ  
 (2)数体系の拡大  
 (3)有理数・実数  
 (4)数とは何か——ゼノンのパラドクスをめぐって  
 II. 図形について——ユークリッド「原論」第一巻をたどる。  
 III. 現代数学の観点から

特に前半部分は経済学部、経営学部で必修数学科目を履修する諸君にも有用と思われる。数学が嫌いな諸君は併行して履修することが望ましいと担当者は考えます。

【評価方法】 ・定期試験を行う。  
 ・広い意味での数学書を一冊読み、感想をレポートとして提出することを恒例としてきました。本年度も続けたいと考えています。

【テキスト】 特になし。吉田洋一「零の発見」(岩波新書)を参考に用いる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07241	数学B	選	秋学期	2	1~4	春藤 修二	
他の科目との関連	数学Aを履修していることが望ましいが必須ではない。					履修対象学科	全

【副題】 「数学とは何か」

【講義内容】 「数学A」では数学が担う対象として数と図形を取り上げた。本講では数学の営みを、大まかに数学史の流れを追う中で考える。今日の数学教育がよってきた由来についてもふれたい。

【講義計画】 数学の歴史の中で最も大きな転回点となったと思われる次の3項目をたどる。

- I. ギリシャ数学——紀元前3世紀を中心に  
 II. 微分積分学の誕生——17・18世紀の数学  
 III. 現代数学の成立——集合論と現代数学

最後に数学と数学教育について議論したいと思います。

・数学的知識は全く前提としていません。しかし全くのお話に終わらぬよう具体的問題を取り入れる工夫はしたいと考えています。

・情報管理学科生で将来「数学」の教員免許状取得を希望する諸君には履修を勧めます。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果によるが、出席して話を聞いてきた人を優遇する工夫はしたい。

【テキスト】 特になし。吉田洋一・赤堀也「数学序説」(培風館)を参考に用いる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07246	物理学A	選	春学期	2	1~4	柏村 昌平	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 光と粒子の物理学

【講義内容】 光の運動と物体の運動を中心にして、運動の物理学の法則を説明する。主たるテーマは、光の運動では光源、光線、光速、光の波動性、光の粒子性、二重性、相対論、物体の運動では力とそのモーメント、運動量、運動の法則、仕事とエネルギー、剛体、電子の二重性などである。現象の理解のためには演示実験を行い、論理の理解のためには数式の計算を含めた演習を伴う授業を行う。歴史的な側面や社会的な側面にもふれる。

【講義計画】 ほぼ次のテーマの順に講義する。

光の物理学の授業内容

(1) 光線 (2) 光の速さ (3) 光の波動性 (4) 光の干渉と回折 (5) 光の二重性  
(6) 相対性原理

粒子の物理学の授業内容

(1) 力と力のモーメント (2) 運動と運動量 (3) 運動の法則 (4) 仕事とエネルギー  
(5) 剛体の運動 (6) 電子の二重性

板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校程度の数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）

【テキスト】 『物理学A&B』 柏村昌平 学術図書出版社  
(数式、数値、グラフはこの本に依拠するから、必ず持参しなさい)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07251	物理学B	選	秋学期	2	1~4	柏村 昌平	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 電磁気現象と物質の物理学

【講義内容】 物質の性質と電磁気現象を中心にして、物質の物理学の法則を説明する。主たるテーマは、元素と原子、温度と相変化、熱力学、熱機関、原子核、放射能、電荷と電場、電流回路、磁場と磁石、交流回路、電磁波、エネルギー問題などである。現象の理解のためには演示実験を行い、論理の理解のためには数式の計算を含めた演習を伴う授業を行う。歴史的な側面や社会的な側面にもふれる。

【講義計画】 ほぼ次のテーマを講義する。順序は適切に配慮する。

電磁気の物理学

(1) 電荷と電場 (2) 電流と磁場 (3) 電流と磁場と電場 (4) 電磁波

物質の性質の物理学

(1) 温度と相変化 (2) 熱と仕事 (3) エネルギー問題 (4) 原子とスペクトル (5) 放射線 (6) 原子核反応と原子力

板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校程度の数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）リアクションペーパー（副）

【テキスト】 『物理学A&B』 柏村昌平著 学術図書出版社  
(数式、数値、グラフはこの本に依拠するから、必ず持参しなさい)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07256	生命自然史	選	春学期	2	1~4	江本 純	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】

生物の歴史と言いますと、皆さんの多くが「恐竜」を連想することと思います。確かに恐竜は地上で生活し、もっとも大きく、しかも「絶滅」したということから、生物の歴史のなかで大きなできごととして強く印象に残っています。しかし生命が誕生してから40億年の歴史には、恐竜の絶滅以外にも、もっとドラマチックな出来事が繰り返されています。

たとえば、皆さんはこの地球に誕生した最初の生命体はどんなものだったか想像したことがありますか。単純な細胞様のものだったに違いありませんが、中身はどんなになっていたのでしょうか。現在の生物と同じように遺伝子を持っていたのでしょうか。最初の生命体は誕生や死という運命を持っていたのでしょうか。オスやメスはこのような生物にもあったのでしょうか。

生命は海で誕生したことは多くの人がご存知ですが、陸上の動植物はいったいどこから来たのでしょうか。恐竜はなぜ滅びたのでしょうか。そして人間はどのようにして誕生したのでしょうか。

現代生物学はこのような問題を、現在の生物や細胞を研究することで解明していこうという学問です。これらの研究は古くは化石を頼りに行われてきましたが、現代ではむしろ私たちの体そのものや生きている細胞を研究することから、その答えを探るという方向に向かいつつあります。この授業では、生命の誕生、細胞の進化、オスメスの誕生、生物の多様性の形成、生物の死、人類の誕生といった、生物の歴史の大きな出来事にスポットを当てて、わかりやすく解説していくものです。

【講義計画】

- I. はじめに  
地球46億年のあらすじ
- II. 生命誕生の舞台：化学進化  
生命はどこで誕生したのか：生命をつくった物質  
原始の海で生物が誕生した
- III. 細胞の時代：現在の細胞に潜む生命40億年の歴史  
生物を構成する細胞は40億年生きつづけている  
細胞の合体：呼吸系にみる生命の歴史  
最初の生命体を推測する：その証拠は私たちの体にある
- IV. 生物多様性の時代  
細胞は死なない、細胞は自殺する  
多細胞生物の運命：細胞死と寿命  
個体の死によって生まれる多様性：オスとメスの誕生
- V. 無脊椎動物とはどんなものか  
生物のカンブリア大爆発  
地球に繁栄する無脊椎動物とその生活
- VI. 脊椎動物の誕生と進化、そして絶滅  
体の中に海をつくった生物たち  
緑の地球の誕生と上陸した動物たち
- VII. 人類の誕生  
ヒトとはどんな動物か  
何がヒトをつくったのか

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

授業中に参考書を紹介します

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07261	生命科学	選	秋学期	2	1~4	江本 純	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】

「クローン動物」をご存知でしょうか。1997年2月、イギリスのロスリン研究所で羊の体細胞から「同じ遺伝子をもった動物」であるクローン羊ドリーが誕生しました。「同じ遺伝子を持つ」ということはどういう

ことだと考えますか。私たちの体は母親と父親から受け継いだ遺伝子という、いわば設計図によって作られています。つまりは設計図であるDNAがあれば、生物体を作り出すこともできるわけです。ドリーの場合は一個の体細胞のDNAが設計図となりました。

“ジュラシック・パーク”という映画もありました。化石の中から遺伝子を取り出して、生きた恐竜を復元する。“生命をつくるなどとてもない”と思っていたあなたは、この映画をみて、“こんな手があったのか”と、その意外さと巧妙さに魅了されたと同時に、空恐ろしさを感じたことでしょうか。もちろん生物を作り出すなど、夢のまた夢ですし、やっではないけれども(?)なのかもしれませんが、この“生命の作り方”は現実味をおびてまいります。その秘密は、今はやりのDNAつまり遺伝子にあります。遺伝子とは、細胞を構成するさまざまなタンパク質をつくるための設計図です。私たち人間をつくる設計図も、もちろん遺伝子DNAからできています。この人間の設計図を広げますと、約2mくらいになるそうです。大腸菌の設計図はほんの数mmです。大腸菌よりも人間の方がはるかに複雑にできていますから、これは当然なのでしょう。ところが人間よりもちよっぴり単純なカエルの設計図は、なんと20mを超えます。カエルが人間よりも10倍も複雑であるとはとても考えられません。でも設計図の大きさは10倍なのです。いったいどうなっているのでしょうか。遺伝子はたしかに設計図ではありますが、まだわからないこといっぱいあるのです。最近の生物学の急速な発展から、どうやら遺伝子DNAは私たちの寿命や老化、そしてガンにも関係しているらしいのです。

この授業では、遺伝子もっている謎の部分の解きあかしながら、遺伝子がどのようなもので、また人間社会がこの遺伝子をどのように利用しようとしているのかを学んでいきます。文科系の皆さんは“遺伝子などは理科系の問題”と考えてはいませんか。今や遺伝子は社会・文化の問題となりはじめています。皆さんが社会で働いていく上で、この知識はきっと役にたちます。是非とも履修しましょう。

【講義計画】

- I. 現代生物学とは?
  1. 生物界の構造と生命-生命現象を細胞レベルで理解する
  2. 細胞の構造と機能：細胞は何をしているのか
  3. 細胞：タンパク質をつくる装置
  4. 遺伝子とタンパク質合成
- II. 私たちの遺伝子DNAを解説してみる
  5. 設計図としての遺伝子、精密情報処理の世界
  6. インスリン遺伝子はどんな構造になっているのか
  7. 遺伝子が支配する世界「自己と非自己」の科学  
非自己を識別する免疫の機構
  8. 遺伝子にはまだわからないことがいっぱいある
- III. ウイルス
  9. ウイルスの構造と遺伝子
  10. エイズ（後天性免疫不全症候群）  
エイズ（AIDS）とエイズ・ウイルス（HIV）  
奇妙なウイルス“レトロウイルス”：初期の生命体を解き明かす鍵  
ウイルスは生命か？ ウイルスとバクテリア
- IV. 遺伝子治療
  11. 遺伝子治療とその問題点（ビデオ40分）  
病気の多くは遺伝子が原因、近未来の薬は遺伝子
  12. 遺伝子治療の原理  
意外なものが遺伝子治療にもちいられる
  13. ゾウリムシに性はあるの？えっ！8つも、男と女と・・・？  
遺伝子修復と細胞分裂、若返りと性  
生物はなぜ死ぬの？

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 なし

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07266 07267	基礎生物学セミナーA	選	春学期	各4	1~4	江本 純
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 実験を通して“生きている”ということを考える

【講義内容】 「細胞は死なない」と言ったら、皆さんはどのように感じますか。私たちは「生物はみんな死ぬ」と教わってきました。でも考えてみてください。私たちはすべて細胞でできています。その細胞は最初1個の受精卵でした。この受精卵は母親の生殖細胞の1個が、死ぬことなしに精子と一緒にすることで次の世代

の出発点となるわけで、細胞は死なずに新しい個体の誕生として引き継がれていきます。究極的に言いますと、40億年前に誕生した最初の生命としての細胞は、一度も死ぬことなしに次世代へと受け継がれ、現在の私たち生物の細胞へと変化してきたわけです。このように理解すると、細胞が生きているとはどうゆうことか、細胞の機能とはどんなものかという問題はたいへん興味深いものだとすることに気づくでしょう。

この授業は、文科系の皆さんにもこのような問題を理解していただくために、細胞の基本的な機能に焦点を当てた生物学実験をふんだんに取り入れたものです。自分で実験することで、これまで苦手と感じてきた生物学の基礎知識が自然に身につくように構成されています。

春学期の基礎生物学セミナーAでは、生物学の基礎である細胞の機能を中心に、生物学から見た“生と死”の問題を考えていきます。また電子顕微鏡によるミクロの世界の観察や動物の解剖も準備しています。

皆さんの世紀「21世紀」は“バイオの時代”でもあります。“バイオ技術”は、私たちの生活・文化・精神を今まさに大きく変えようとしています。文科系の皆さんにとっても今までは“生物学”という遠い世界だったものが“バイオ”となって押し寄せています。これからの皆さんには、生物学の基礎知識は大変重要なものになります。是非とも受講することを勧めます。

【講義計画】

1. 実験における諸注意、顕微鏡の操作、スケッチの方法
2. 細胞の構造：オオカナダグモの表皮細胞
3. 細胞は何をしているのか  
    個体発生における生と死：ウニの発生
4. 細胞の基本機能：体細胞分裂
5. 多細胞動物の細胞分化：ヒドラ
6. 電子顕微鏡：電子顕微鏡の構造と試料作製
7. 電子顕微鏡：操作と写真撮影
8. 原生動物と共生：シロアリの腸内共生微生物
9. 遺伝子DNAの抽出（タラの精巢）
10. 植物色素の分析：クロマトグラフィの原理と実験
11. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの内部形態
12. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの筋肉系
13. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの骨格系

【評価方法】

実験レポート

【テキスト】

実験マニュアルは生物学教室で準備します

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07271 07272	基礎生物学セミナーB	選	秋学期	各4	1～4	江本 純
他の科目との関連						履修対象学科：全

【副題】

私たちの遺伝子DNAを分析してみよう

【講義内容】

「遺伝子治療、DNA鑑定、クローン技術、遺伝子組み換え食品・・・」

最近、新聞紙上やテレビなどでよく耳にするようになった言葉です。私たちの生活の身近なところで、このような生物学の先端技術が普及しつつあります。イギリスやフランスでは、すでに犯罪捜査にDNA鑑定が採用されていますし、わたしたちが普段口にする食品にも遺伝子組み換え技術は普通的手段となっています。また遺伝子治療やクローン技術でも、その影響力が大きな社会問題として問われ始めています。

秋学期の基礎生物学セミナーBでは、現在の生命科学の中心である遺伝子DNAに関して学び、実際に私たちの遺伝子DNAの一部を解析します。遺伝子技術がどのような原理を基にして、どのような手順で行われるのかを実際に学びますと、逆に、その利用における危険性もよく理解できるようになります。

皆さんの世紀「21世紀」は“バイオの時代”でもあります。“バイオ技術”は、私たちの生活・文化・精神を今まさに大きく変えようとしています。文科系の皆さんにとっても今までは“生物学”という遠い世界だったものが“バイオ”となって押し寄せています。これからの皆さんには、バイオテクノロジーの基礎知識は大変重要なものになります。是非とも受講することを勧めます。

【講義計画】

1. 実験の諸注意、レポート作成のための分担  
    遺伝子科学に関する社会の動向 その1
2. 遺伝子科学に関する社会の動向 その2  
    遺伝子取り扱いに関するガイドライン討論
3. 細胞と遺伝子：DNAからタンパク質  
    細胞と遺伝子：生命の起源、酵素の役割
4. 実験：クロマトグラフィの原理

5. 実験：DNAの抽出（タラの糟染）
6. 遺伝子DNAの構造とその解読  
解読のトレーニング
7. 免疫とはなにか  
自己・非自己を認識する免疫のメカニズム
8. DNA分析の原理と方法  
器具の操作訓練
9. 実験：DNA抽出、調整、増幅
10. 実験：増幅DNAの検出、制限酵素による切断
11. 実験：電気泳動法によるDNA断片の分離
12. レポート作成
13. 発表会と討論

【評価方法】 実験レポート

【テキスト】 実験マニュアルは生物学教室で準備します

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07276 07277	化学	選	春学期 秋学期	各2	1～4	山本 正康
他の科目 との関連						履修 対象学科 全

【副題】 我々の健康に密接に関連する化学および化学薬品

【講義内容】 本講義では、我々の生活に関係する化学物質についての理解を深める。現代の我々の身のまわりには、いろいろな化学物質であふれている。地球上のすべての物質は化学物質として表現できるが、人工的な化学合成品だけで考えてみても、我々の衣食住のすべてにわたってかなり人工の物質が入っている。本講義では、とくに身近な元素や化学物質のほか医薬品、ビタミン、ホルモンおよび食品添加物について講義する。

【講義計画】 現代の我々の生活は化学的な現象および化学物質との関連が非常に大きい。この講義ではこの膨大な化学物質の中で、特に我々の健康に密接に関連するものを取り上げて講義する。  
まず、自然界および生体を構成する元素を概観し、生命現象と関連する酸素等の役割と害について述べる。次いで、医薬品の発展と問題点について概説し、細部についてはなじみの深い鎮痛剤や催眠薬、消化薬などを解説する。さらに、健康に密接に関連するビタミンについて種類や役割を述べる。  
ビタミンと対照的で生体の機能と維持に重要なホルモンの種類や作用について講義をする。さらにこれに関連して内分泌作用を攪乱する環境ホルモンにも触れる。  
次に、最近犯罪とも絡んで問題になっている依存性薬物を取り上げる。麻薬、覚せい剤、LSDさらにはシンナー、アルコールなど社会問題とも絡む有害性を考えてみる。

【評価方法】 ある程度先に問題を提示し、それについて主として筆記試験により評価する。

【テキスト】 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07281 07282	心理学A	選	春学期	各2	1～4	早矢仕 彩子 浦上 昌則
他の科目 との関連						履修 対象学科 全

【講義内容】 本講義では、心理学全般にわたり概観することを通して、現象に対する心理学的な見方や知見を理解し、それを今後の生活の諸側面において利用できる素地を養うことを目的とする。具体的には、「心理学」という学問の営み、認知心理学、学習心理学及び性格心理学について扱う。

【評価方法】 期末に行う筆記試験の結果による。

【テキスト】 藤本忠明ほか著 「ワークショップ心理学」ナカニシヤ出版

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07286 07287	心理学B	選	秋学期	各2	1~4	早矢仕 彩子 中村 和彦	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 本講義は、心理学の分野でも、とりわけ個人と社会との関係に係わる様々な事象や問題を心理学的に解釈し、それを問題解決のためのヒントにできるような内容を提供することを目的とする。具体的な内容としては、心理学Aで取り上げなかった分野、すなわち、発達心理学、社会心理学及び健康心理学について学ぶ。

【評価方法】 期末に行う筆記試験の結果による。

【テキスト】 藤本忠明ほか著 「ワークショップ心理学」ナカニシヤ出版

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07291	科学技術論A	選	秋学期	2	1~4	小林 傳司	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 科学技術が社会との相互作用するものであるという認識を支える、近年の科学哲学、科学社会学の基本的な理論を概観する。科学哲学においては、ポパーの反証主義とその後の展開、クーンのパラダイム論及び両者の論争を解説する。科学社会学に関しては、マーティンの科学者の社会学の基本的な内容を解説し、近年の科学知識の社会学との異同を概観する。

- 【講義計画】
1. 序論
  2. 科学哲学と科学技術
    - ・科学哲学の目指すもの
    - ・反証主義科学観
    - ・パラダイム論的科学観
    - ・現代科学の変容と技術
  3. 科学社会学と科学技術
    - ・社会における科学・技術の位置
    - ・専門家と素人の関係
    - ・科学技術の制御は可能か、必要か。
  4. まとめ

【評価方法】 定期試験による。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07296	科学技術論B	選	春学期	2	1~4	横山 輝雄	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 現代科学論

【講義内容】 科学技術は、現代社会のなかで非常に大きな役割を果たしている。しかしそれは人類に幸福をもたらすだけでなく、環境問題にみられるように否定的なものをもっている。科学技術に対する楽天的な進歩思想が近代に登場するとともに、ロマン主義のような反科学技術思想もあらわれた。それらの主張を科学技術

の歴史的な文脈において検討し、それをもとに現代の問題を考える。

【講義計画】

1. 科学の成立
2. 科学革命と科学者集団
3. 科学的合理性と「二つの文化」
4. 実験と観察
5. 科学的発見
6. 科学の公衆的理解
7. テクノロジーの思想
8. サイボーグ：機械と身体の融合
9. サイバー・スペース
10. フェミニズム科学論
11. エコ・フェミニズム
12. 原子力の文化政治学

【評価方法】

主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07301 07302	地球科学A	選	春学期	各2	1～4	阿部理	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】

海の現在と過去

【講義内容】

水惑星「地球」はその70%が海におおわれている。海は地球環境の形成と維持に対して大きな役割を果たしている。現在の地球環境において海は、エネルギーの水平輸送を行うことによって気候を決め、また物質の鉛直輸送を行うことによって大気的气体組成を決めている。また、近年増加している二酸化炭素などの温室効果气体を吸収することによって、地球の温暖化を緩和する働きを行っている。ふりかえって過去の海を調べてみると、氷河期と間氷期のサイクルにおいて海が担ってきた役割は大きいことも知られている。

本講義では、地球環境における海の働きを、現在の物理・化学的特性および歴史の変遷を概説し、近年の温暖化問題と海との関わりについても触れる。

【講義計画】

- ・海の物理・化学的特性
  - ・過去2万年間の海の変化
  - ・地球温暖化と海との関わり
- を中心に講義を進める予定。

【評価方法】

評価は、出席数及びレポートによって判断する。

【テキスト】

使用しない。参考図書は適宜紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07306 07307	地球科学B	選	秋学期	各2	1～4	檜山哲哉	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】

大気水圏の科学（大気科学・水文学・地形科学）

【講義内容】

地球は、太陽系の惑星の中で唯一、固相・液相・気相の三相の水を保持することができる惑星である。水の三相にわたる相変化によって、地球には他の惑星にはみられない独特の大気現象や水文現象がみられる。太陽からの放射エネルギーにより、海洋表層や陸域表層から大気層にわたって繰り広げられる水の循環とエネルギーの循環は、大気の循環と相互に作用し合いながら、生物にとってかけがえのない物質の循環をも決定する。

本講義では、地球における水とエネルギーの循環を基本にとり、人間に身近な大気・水文現象からグ

ローバルな大気・水文現象を概観した後、エルニーニョ、地球温暖化やオゾンホール等の成因等、気候変動や地球環境問題に関する最近の話題を盛り込み、今後の人間と地球とのあり方について問題提起をしていく。

【講義計画】 水の惑星「地球」の成因から導入し、大気科学、水文学、地形科学の基礎を講義した後、ローカルな大気・水文現象（局地気象や都市気候等）とグローバルな大気・水文現象（大気大循環や温室効果のメカニズム等）について講義する。また、後半ではエルニーニョやオゾンホール等の成因等、気候変動や地球環境問題についても触れる。  
講義は配布する資料とOHPを使用しながら進める。

【評価方法】 レポート試験

【テキスト】 特定のものは使用せず、配付資料を使用する。参考書は適宜紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07311	スポーツ科学論	選	秋学期	2	1~4	寺田 邦昭	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 スポーツと人間

【講義内容】 本講義では、スポーツと人間との関係について、人文科学的視点および自然科学的視点から考察する。前者の視点においては、高度化されたチャンピオンシップスポーツの意義と問題点、大衆化されたスポーツの今後の方向、またスポーツの生活化の方策について検討する。後者の視点においては、スポーツと体格や体力・運動能力との関係、またスポーツ場面において極めて重要な、動く視対象物に対するタイミング動作の成立機序について、視覚情報の受容面から考察する。

【講義計画】 我々の日常生活に深い関わりを持つに至ったスポーツを、以下の項目から考える。スポーツとは何か  
スポーツの発祥 近代スポーツの誕生 スポーツと国民性 近代オリンピック スポーツの政治利用 アマチュアリズム スポーツの商業化 スポーツと身体機能（神経 筋 呼吸循環） スポーツとタイミング

【評価方法】 筆記試験およびレポート、出席状況等により評価する。

【テキスト】 授業用の資料はプリントして配布する。また、各週毎の講義内容は学内ホームページに掲載する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07312	スポーツ科学論	選	春学期	2	1~4	中路 恭平	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 現代社会における人と運動・スポーツ

【講義内容】 本講義では、スポーツと人間との関係について、人文科学的視点および自然科学的視点から考察する。前者の視点においては、高度化されたチャンピオンシップスポーツの意義と問題点、大衆化されたスポーツの今後の方向、またスポーツの生活化の方策について検討する。後者の視点においては、スポーツと体格や体力・運動能力との関係、またスポーツ場面において極めて重要な、動く視対象物に対するタイミング動作の成立機序について、視覚情報の受容面から考察する。

【講義計画】 主な内容は次の通りである。  
1. スポーツとは何か  
2. スポーツの歴史  
3. スポーツの文化  
4. アマチュアリズムとその変遷  
5. スポーツの高度化と経済化

6. 生涯スポーツの時代
7. 運動と健康・体力
8. 運動と栄養・エネルギー
9. 運動と身体機能（呼吸循環機能）
10. 運動と身体機能（筋機能）
11. トレーニング・運動処方

【評価方法】 期末試験の結果のほか、授業中のミニレポートを加味する。

【テキスト】 テキストは使用せず、講義資料を配布する。また、参考文献は講義内で紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07316	健康科学論	選	春学期	2	1～4	寺田 邦昭
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 現代人と健康

【講義内容】 本講では、WHOによる健康の定義の中から、主に身体的・精神的健康に焦点をあて講義内容を構成する。我々は常に外界から種々の刺激を受けつつも、それらの環境に適応し、恒常性を維持している。「ストレスは人生の薬味」とも言われるが、省力化社会の中で、運動刺激不足に起因する疾病も増加の一途を辿っている。ここでは、個人及び集団の健康問題を、国民生活に関する諸調査資料をもとに明らかにすると共に、医療制度はもとより、生活習慣病の予防を始め、精神的健康のための運動の効果・処方などについて考える。

【講義計画】 先ず、健康の本質について、健康観の変遷や、現代の主な健康観について概観した後、恒常性、適応作用の意義及びその内容や、疾病による身体の変化など、人体の生理・病理について学ぶ。次いで、個人衛生の立場から、青年期における心身の問題について考える一方、既に青年期から始まるとされる生活習慣病等について、その発生原因や、それらに対する身体運動の効果等について考える。また、公衆衛生の立場からは、環境問題、医療問題、社会保障などの諸問題について考察する予定である。

【評価方法】 筆記試験およびレポート、出席状況等により評価する。

【テキスト】 授業用の資料はプリントして配布する。また、各週毎の講義内容は学内ホームページに掲示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
07321	スポーツ科学演習Ⅰ	選	春学期	2	1～4	榎本 鐘司
他の科目との関連						履修対象学科 全

【副題】 スポーツにおける日本的

【講義内容】 日本のスポーツ文化は、西ヨーロッパ近代に成立した「近代スポーツ」の物差しでは計れない部分を持っている。これを文献と実演（体験）の両方をおして認識することをねらいとする。内容としては剣道を教材として、そこにある儀礼的様式（正座、黙想、蹲踞）、演技的規範（掛声、残心、有効打突ルール）、競技的技法（形、竹刀・防具の発達と技法）をそれぞれ抽出して、それぞれの本来の意味や歴史的な変容を検討し、またその整合的複合における現代的な意味づけを考察する。  
なお、クラスの人数は上限40名までとし、場所は剣道場とします。

【講義計画】

1. 武道の歴史概略
2. 「気」論と武道（東洋的身体論）
3. 「道」と武道（仏教、儒学の影響）
- 4～9. 剣道実技
  - 防具、竹刀などの用具について
  - 「正座・黙想」「そんきょ」「掛け声」等の意味と機能

- 「演ずること」から「競うこと」へ  
 「一本（有効打突）」の概念形成と日本文化について考える。etc.
10. 現代武道と古武道の異同（講義）
  11. 「演ずること」と「競うこと」の再検討（講義）
  12. スポーツにおける日本的  
 （武道の構造から武道の歴史を再構成して考える。）

【評価方法】 出席を重視し、レポートによって評価する。

【テキスト】 参考書は次の通り。  
 1. 武道編『先生なぜですか』（大修館書店）  
 2. スポーツ文化論シリーズ6『スポーツコミュニケーション論』（創文企画）  
 3. エドワード・ホール『かくれた次元』（みすず書房）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
07326	スポーツ科学演習Ⅱ	選	秋学期	2	1～4	榎本 鐘司	
他の科目との関連	07321スポーツ科学演習Ⅰ （スポーツにおける日本的）の修得が必要					履修対象学科	全

【副題】 武道の伝書に記された身体思想

【講義内容】 武道資料（古文書史料も含む）を講読する。『兵法家伝書』（柳生宗矩著）、『五輪書』（宮本武蔵著）、『不動智神妙録』（沢庵著）、『猫の妙術』（佚斎樗山著）などをとりあげ、武道と荘子の「練達自然」、儒学の「理気」、禅の「不動智」などの思想との関連を考える。また、「技」と「心」との間に介在する「気」の問題をとりあげ、日本的な身体思想についても考える。

【講義計画】 1～5回：古代の人々の身体観、道教の身体観、密教の身体観、禅と身体などについて概観し、これらにある身体技法についても体験・実習的に行ってみる。  
 6～12回：『猫の妙術』、『五輪書』、『不動智神妙録』、『兵法家伝書』の講読。一部実演や実技を含む。

【評価方法】 出席を重視し、レポートによって評価する。

【テキスト】 岩波文庫『五輪書』。  
 上記以外の資料は、適宜配布する。

# 共通教育科目

## G. 情報科目

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
07501 }           07506 07516 }           07521	情報リテラシー	選	春学期 秋学期	各2	1・2	村本 正生 姜 秉 国
他の科目 との関連						履修 その他 対象学科 を参照

- 【講義内容】** コンピュータリテラシーを基礎技術として、様々な学習・研究にどのような情報が必要とされ、どう活用していくか、情報機器を活用しての各専門教育やゼミの中での問題解決能力の習得と考える。したがって、初学年（初めてコンピュータを学ぶ学生）を対象にしたものである。扱っている内容は、ワードプロセッサ、表計算、情報検索、インターネット、情報倫理である。広く情報化社会の恩恵と脆弱さ、情報化社会への洞察力をも養う。
- 【講義計画】** コンピュータ操作を中心に、基礎的な情報システムの概念の説明を織り交ぜて授業を行う。  
 コンピュータの仕組み  
 パソコンの機能説明とオペレーティングシステムの役割  
 文書処理（ワードプロセッサ）  
 データ入力、日本語変換、文書編集と印刷  
 インターネット  
 Webの閲覧、電子メール、ネットワークニュース  
 表計算  
 計算処理、グラフ、データベース  
 情報セキュリティと情報倫理
- 【評価方法】** テーマごとに課題を出し、提出された結果と日頃の出席状況とを考慮した上、総合的に評価する。
- 【その他】** 人文学部キリスト教学科・外国語学部・法学部の学生に限って登録できる。また、自由科目（卒業必要単位に算入されない科目）として履修することはできない。
- 【テキスト】** 村本正生『情報リテラシーの基礎』培風館